

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

投資家のみなさまへ

第35回福証 I Rフェアオンライン 会社説明資料

2022年12月22日

 日本タングステン株式会社

1. 当社の概要

- 会社概要
- コーポレート・ガバナンス体制
- 沿革
- 国内事業拠点
- 海外事業拠点

2. 事業内容の紹介

- タングステンの特徴と製品への活用
- 製品開発の歴史
- 経営理念
- 材料別売上構成比の遷移
- 当社のターゲット市場
- 注力市場別の売上高

3. 日本タングステングループ創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(1) 創立100周年に向けた長期ビジョンおよび2024中期経営計画の事業戦略

- 2000年以降の業績の振り返り
- 創立100周年(2031年)に向けた長期ビジョン
- 2024中期経営計画 基本戦略
- 2024中期経営計画 事業構造の再構築

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ターゲット市場の注力製品
- 注力製品が売上高に占める割合

(3) 注力中の開発製品

- 2024中期経営計画 注力中の開発製品

(4) サステナビリティへの取り組み

- 2024中期経営計画 サステナビリティへの取り組み

(5) 2024中期経営計画の進捗状況

- 2024中期経営計画 財務計数目標と進捗状況

4. 2023年3月期第2四半期の業績概要

- 連結業績の概要
- セグメント別の状況
- 通期業績の見通し
- 2023年3月期第2四半期決算のまとめ

5. 株式の状況と株主還元

- 株式の状況
- 剰余金の配当
- 創立100周年(2031年)に向けた成長戦略

- 本日のまとめ
- ご注意

1. 当社の概要

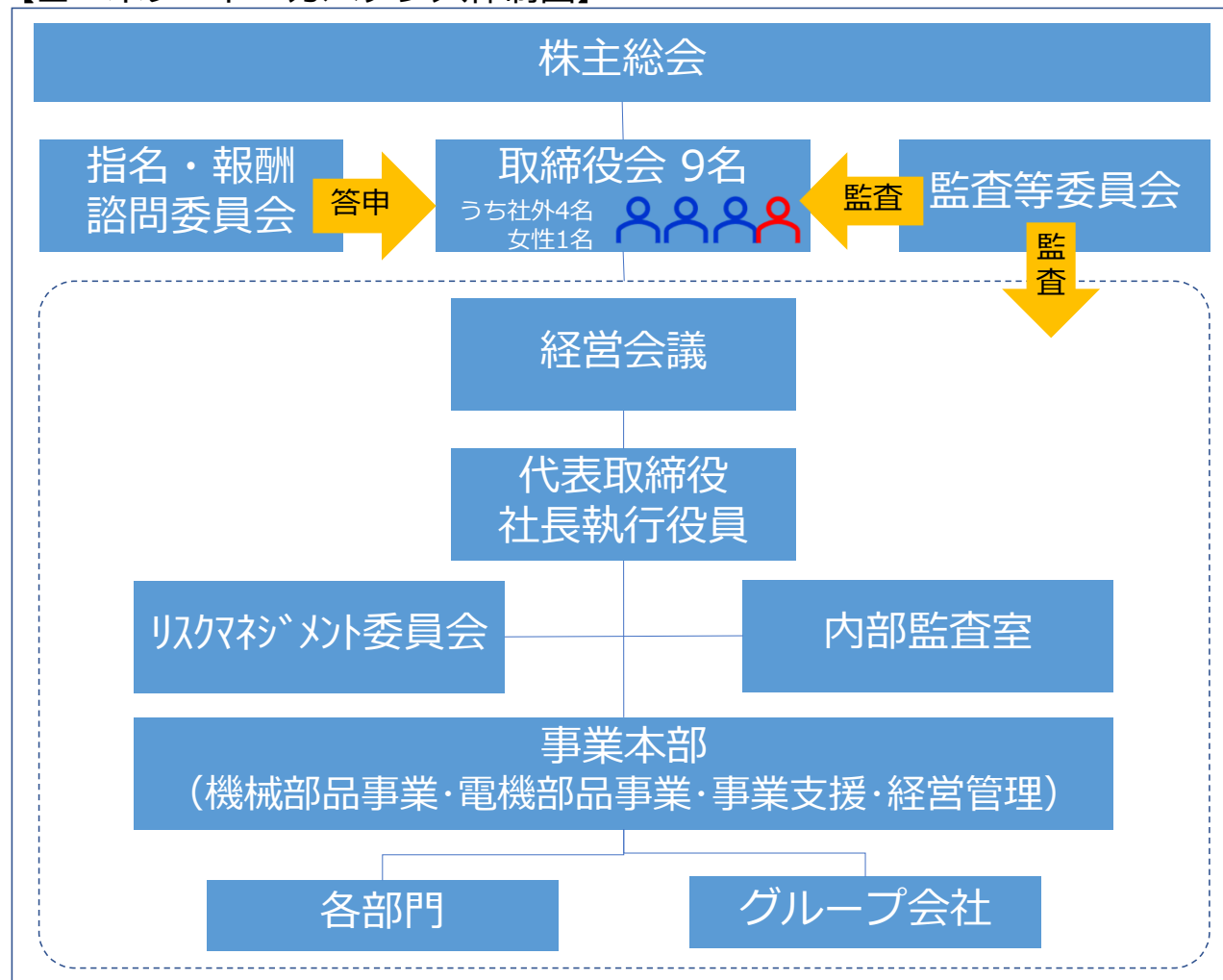
社名	日本タングステン株式会社	
創立年月日	1931年4月1日	
事業内容	1. タングステン、モリブデン、その他の金属の精製加工並びに販売 2. ファインセラミックその他窯業製品の製造並びに販売 3. 不動産の賃貸および管理 4. 太陽光発電事業	
本社所在地	福岡市博多区美野島一丁目2番8号	
資本金	25億950万円	
売上高	120億円3千8百万円（2022年3月期）	
従業員数	518名（連結・2022年3月末）	
役員	代表者	代表取締役社長 後藤 信志
	構成	社内取締役 5名 独立社外取締役 4名（女性1名） 執行役員 1名
グループ会社	【国内】連結子会社 2社 【海外】連結子会社 3社 持分法適用関連会社 1社	

コーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンスの充実に
向けたこれまでの取り組み状況

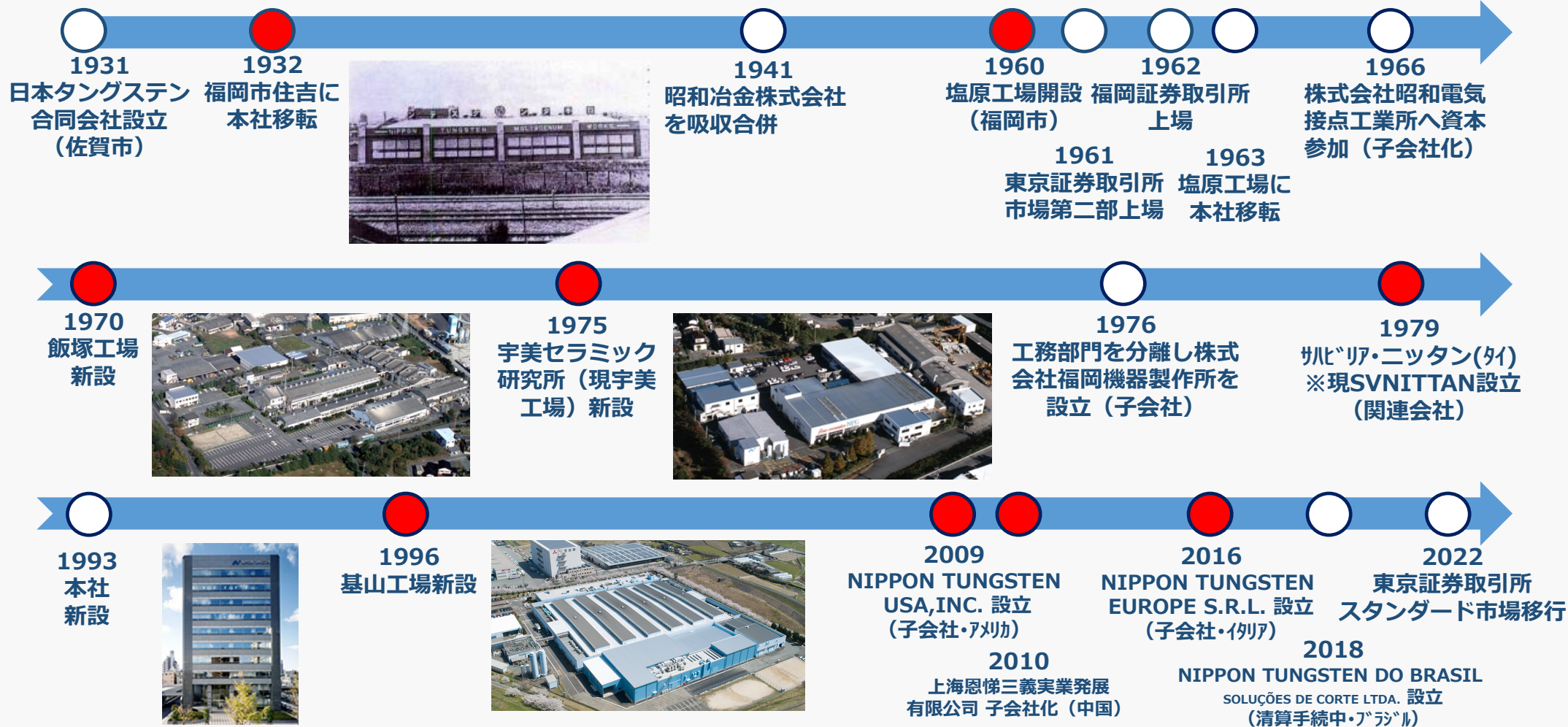
【コーポレート・ガバナンス体制図】

- 2016年 6月 監査等委員会設置会社への移行
執行役員制度の導入
- 2017年 6月 取締役会の実効性評価結果の
公表開始
- 2018年 6月 譲渡制限付株式報酬制度の導入
- 2018年12月 指名・報酬諮問委員会制度の
導入
- 2019年 6月 独立社外取締役を増員
(3名⇒4名)



沿革

● は、主要な事業拠点の開設時期



国内事業拠点

- 1993年竣工
- 10階建の自社ビル
(1～9階部分は法人に賃貸)
- 当社創業の地 (1931年)

本社 (福岡市)



宇美工場 (福岡県宇美町)



- 1975年セラミック研究所として開設
- 磁気ヘッド基板をメインとしたセラミックス製品の生産工場

飯塚工場 (福岡県飯塚市)

(株)昭和電気接点工業所
(連結子会社：同市)



- 1970年開設
- タングステン線を主とする金属材料製品の生産工場

基山工場 (佐賀県基山町)

(株)福岡機器製作所
(連結子会社：同町)



- 1996年開設
- 電気・電子材料製品、超硬合金製品、セラミックス製品を製造
- 開発技術センター、品質保証センターを併設した基幹工場
- 2014年から太陽光発電事業(売電)を実施

佐賀県

福岡県

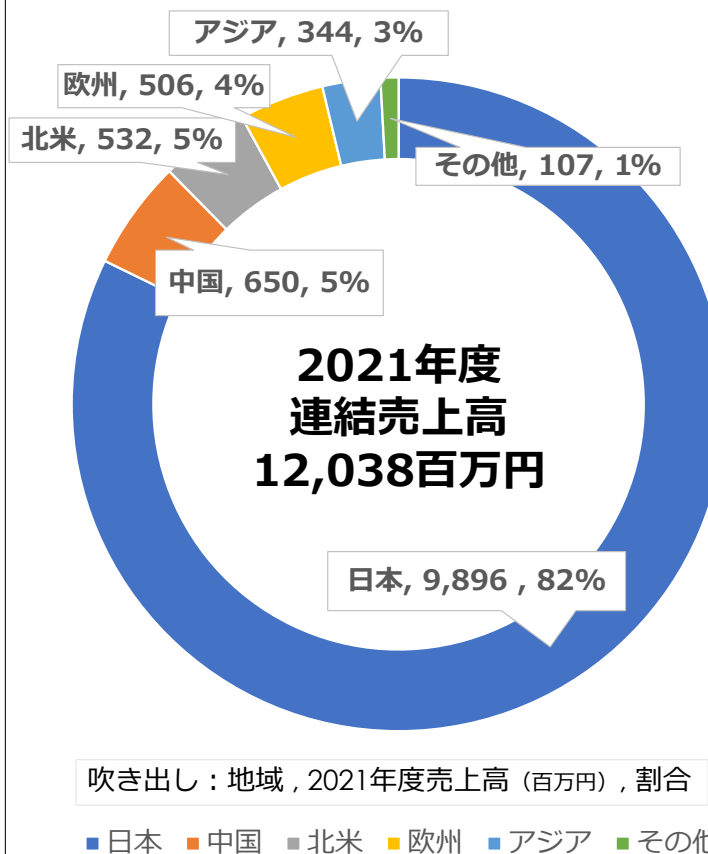
他に営業事務所を設置
東京事務所
大阪事務所
刈谷事務所 (愛知県)

海外事業拠点

- NTダイカッターの販売・再研磨事業拠点
- 中国は、上記の他、梱包機・電極・EVリレー用接点等の拡販拠点



地域別売上高 (海外売上高比率18%)





2. 事業内容の紹介

タングステンの特徴と製品への活用

■タングステンの特性や、他の金属と組み合わせることで様々な用途に製品展開している。

タングステン W

レアメタルのひとつ。
元素記号の「W」は、スウェーデン語
で「重い石」を意味する。



タングステン鉱石

融点が高い(熱に強い)



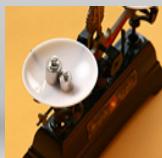
融点（溶ける温度）は3380℃
（鉄は約1500℃）
高融点でアーク消耗が少ない

非常に硬い（摩耗しにくい）



炭素原子と結びついたタングステン
カーバイドはダイヤモンドに次ぐ硬さ

重い（高密度）



同じ大きさの鉄の2.5倍、
鉛の1.7倍
放射線を通しにくい

「特性を生かした独自の製品開発・加工技術力」
「高度な粉末冶金技術」

融点が高い
熱に強い

高温環境下において使用される
高耐熱部材

融点が高い
熱に強い

導電性の高い銅や銀と組み合わせた
電極部材

非常に硬い
摩耗しにくい

硬さを生かした超合金製の
耐摩耗・切削用部材

非常に硬い
摩耗しにくい

高密度
放射線を通しにくい
造影性に優れている

放射線遮へい能力と造影性に優れた
医療用部材

製品開発の歴史

マテリアルから始まる価値創造に挑戦し続けます。



【当社の生産方式】 多種多様な顧客ニーズに対応した多品種少量生産体制



**金属材料製品
(タングステン製品)**

- 創業時の電球フィラメントが製品の出発点
- コピー機や空気清浄機の放電線、自動車の接点(ホーン)等に使用



**電気・電子製品
(タングステン合金)**

- 1930年代からタングステンに銅、ニッケル、鉄等を少量加え、粉末冶金法で製造
- 放射線遮蔽材料、半導体部品、機械部品、EV用接点・電極等に使用



**超合金製品
(タングステンカーバイド合金)**

- 1950年代からタングステンカーバイドとコバルトを粉末冶金法で製造
- 発電所・製鉄所向け耐食耐摩耗部材、NTダイカッター等に使用



**セラミックス製品
(セラミックス材料)**

- 1960年代からファインセラミックスを製造
- 磁気ヘッド基板等の半導体関連製品、耐食耐摩耗部材等に使用

創立者の一人である秋山英二は、タングステンの有望性に着目、アメリカ人技術顧問 ロジャース氏の指導を受けた。

その後、照明用タングステンワイヤーだけでなく電気接点や複合金属・加工品も手掛けたいとの思いから、1931年に当社を設立。

■企業理念 | Our Corporate Philosophy

日本タングステンは、
世界の人々と従業員の明るい未来を実現するために
-マテリアルからはじまる価値創造に挑戦し続けます。
-常にNo.1を目指し、かけがえのない存在であり続けます。

■行動規範 | Our Way

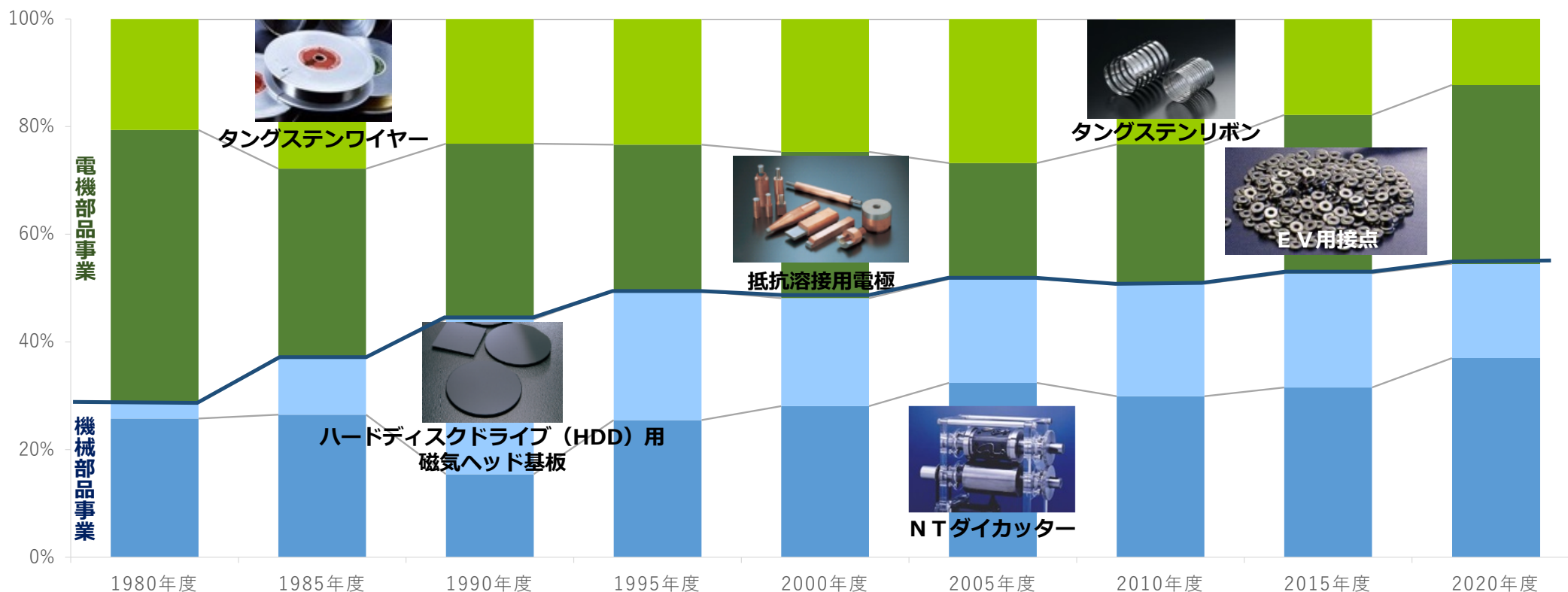
- ・私たちは、情熱を持って、失敗を恐れずチャレンジします。
- ・私たちは、当事者意識を持って、すぐ行動しやり遂げます。
- ・私たちは、相手の立場になって、期待以上で応えます。

材料別売上構成比の遷移

照明用タングステン線 → 電気接点製品 → 超硬合金（工具・刃物） → セラミック製品（工具・基板）と商品構成が変化

(商品構成比率：%)

■ 超硬合金 ■ セラミック ■ 電気・電子材料 ■ 金属材料



当社のターゲット市場

機械部品事業



超合金製品
(タングステンカーバイド合金)



セラミックス製品
(セラミックス材料)

電機部品事業

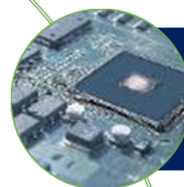


金属材料製品
(タングステン製品)



電気・電子製品
(タングステン合金)

ターゲット市場



半導体・電子部品市場



自動車部品市場



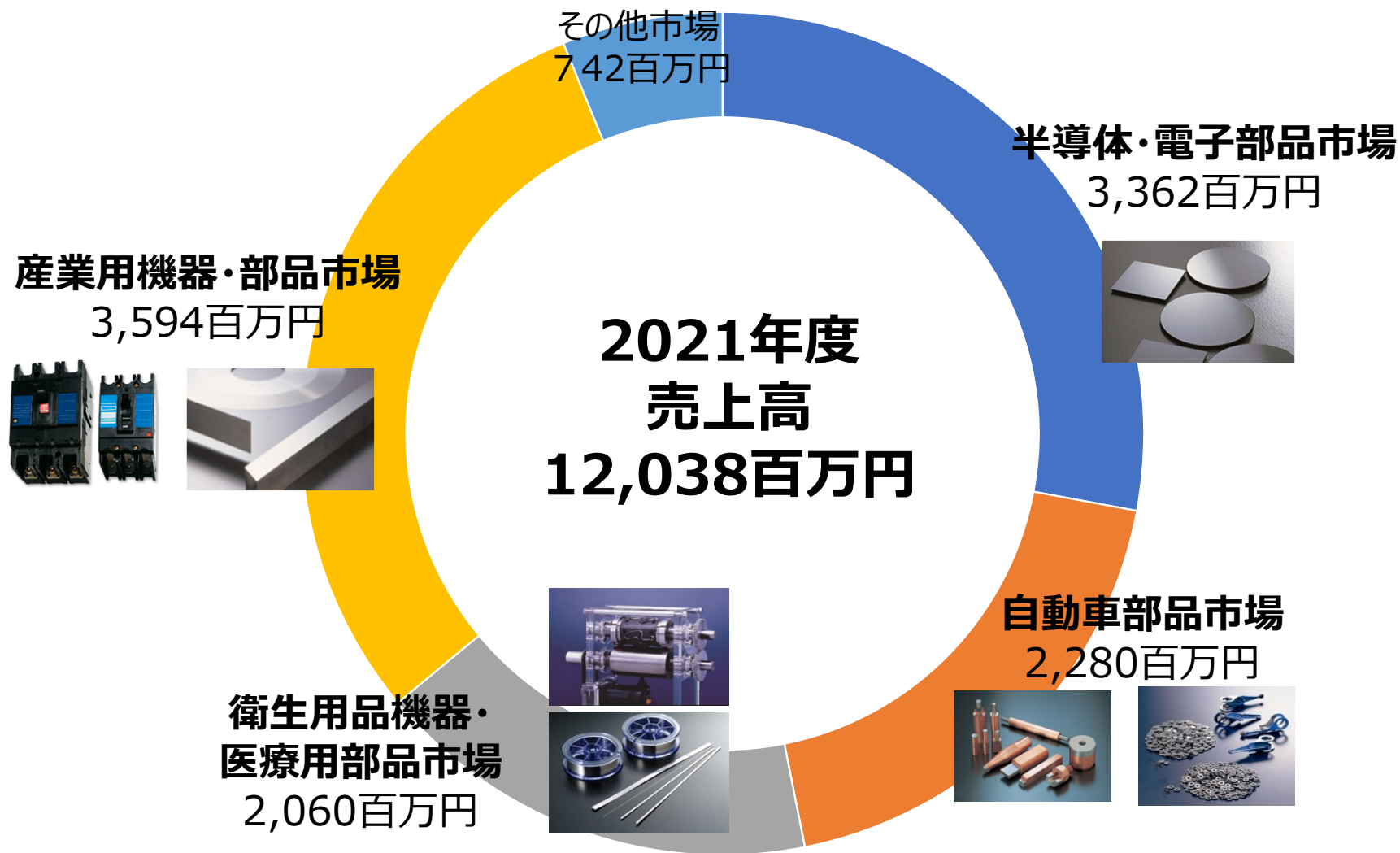
産業用機器・部品市場



衛生用品機器・医療用部品市場

人々の暮らしに大きく関連する市場分野の設備投資や製品に部材を供給。

注力市場別の売上高



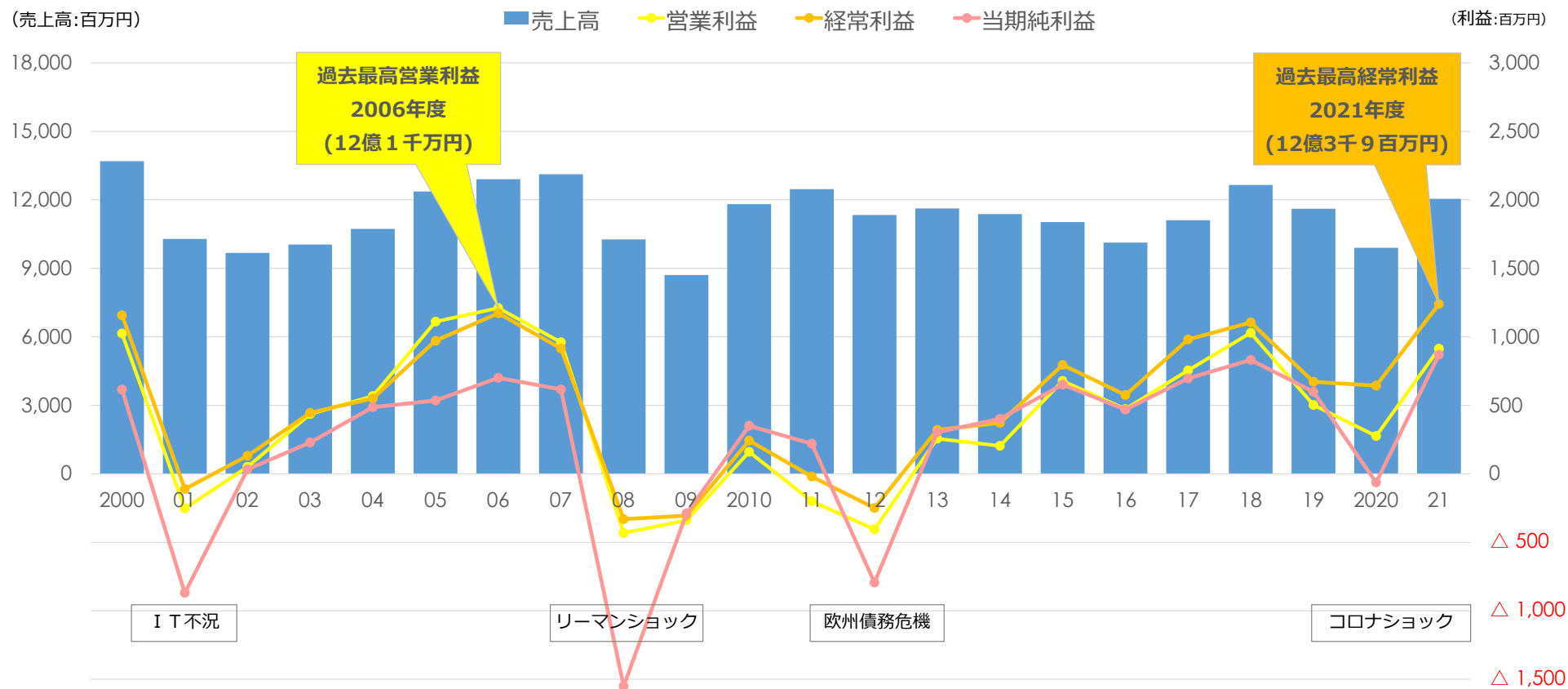
3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(1) 創立100周年に向けた長期ビジョンおよび 2024中期経営計画の事業戦略

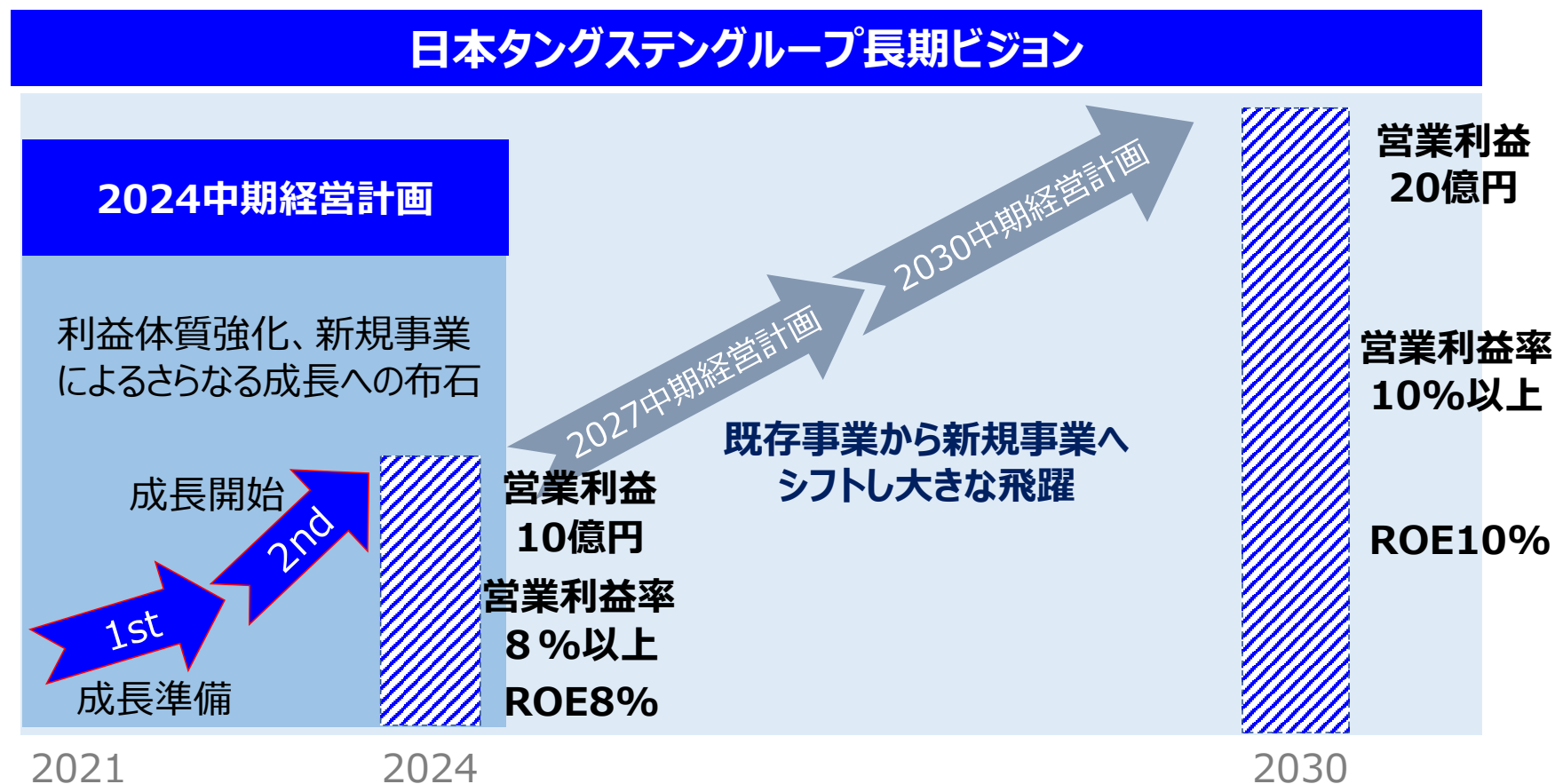
2000年以降の業績の振り返り

日本タングステングループ 業績の推移 (連結)



創立100周年(2031年)に向けた長期ビジョン

2024中期経営計画は持続的成長に向け、収益構造の転換と新商品の創出に取り組む。
創立100周年を見据え、2030年度は営業利益20億円営業利益率10%以上を目指す。



2024中期経営計画 基本戦略

1st Stage(2021～2022年度)を「成長に向けた基盤強化」として位置付け

中期経営計画の課題

- ① 収益構造の改善および事業構造の再構築
- ② 外部環境変化に適応した戦略マネジメント
- ③ 開発・新規事業創出のスループット向上

当社を取り巻く事業環境

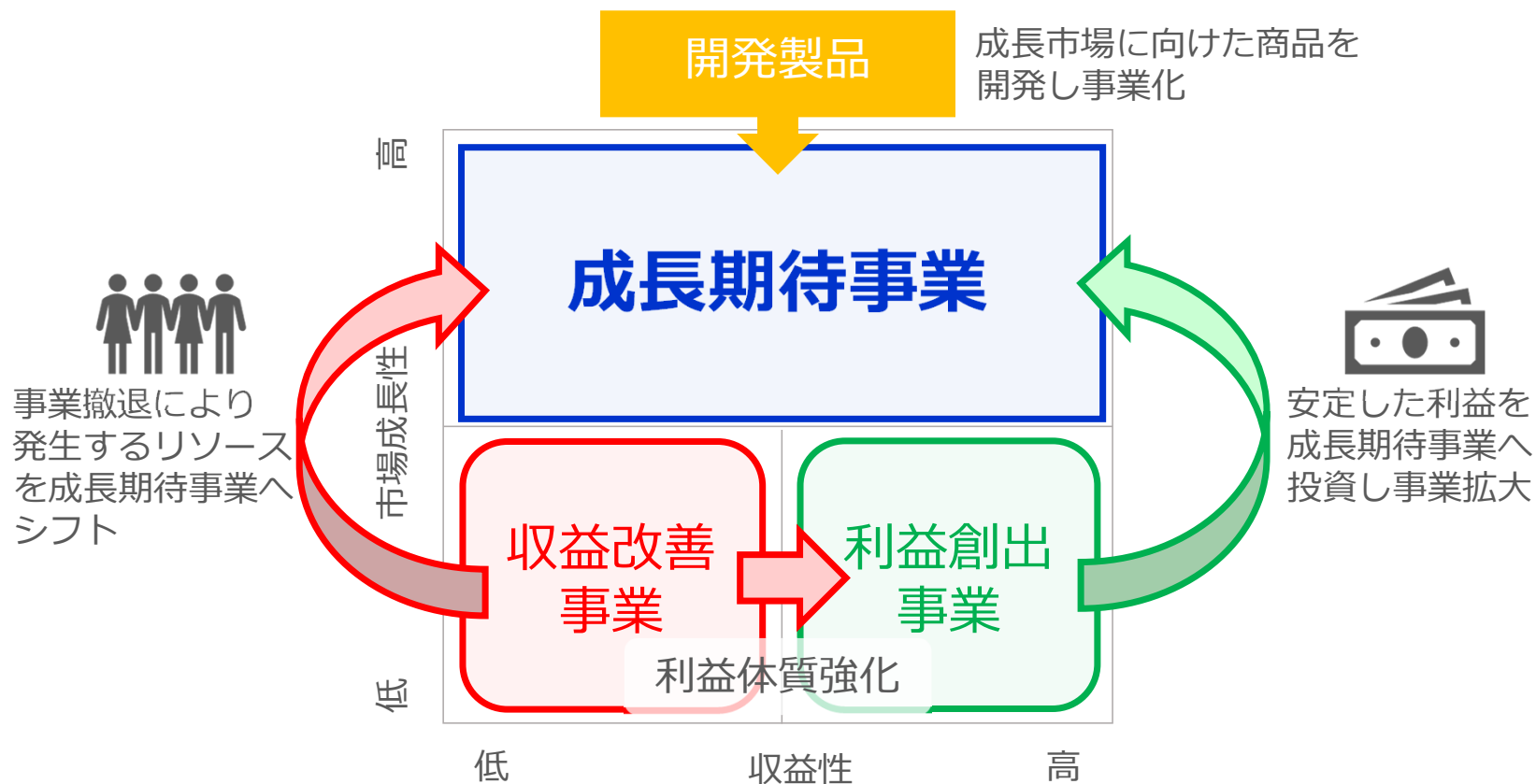
- ・パンデミックの再発リスク
- ・2023年度にコロナ禍前へ回復予測
- ・市場構造の急速な変化

2024中期経営計画 基本戦略



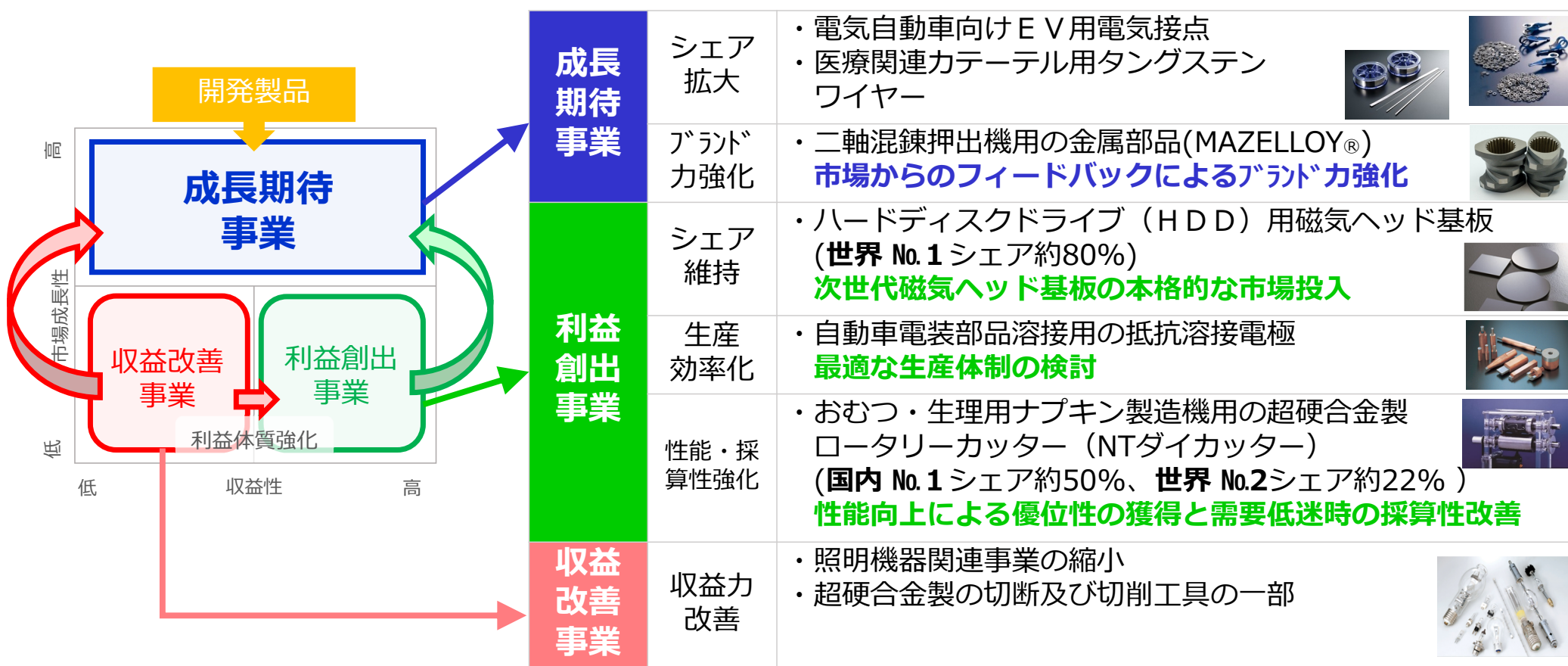
2024中期経営計画 事業構造の再構築

ポートフォリオを再編し、利益創出事業で得たリソースを
成長期待事業へ集中し成長していく



2024中期経営計画 事業構造の再構築

ポートフォリオを再編し、利益創出事業で得たリソースを 成長期待事業へ集中させ、複数の事業で安定的に利益を出す構造を目指す。



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

ターゲット市場の注力製品

4つのターゲット市場にコア技術を生かした製品群を投入。

ターゲット市場	事業セグメント別の注力製品	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ (HDD)用磁気ヘッド基板 世界 No.1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸押出機用部材 (コンパウンド混錬機用) 新商品</p>	 <p>EVリレー用接点 抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用)</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内 No.1 シェア(当社調べ) 世界 No.2 シェア(当社調べ)</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ① 【半導体・電子部品市場】
ハードディスクドライブ（HDD）用
磁気ヘッド基板

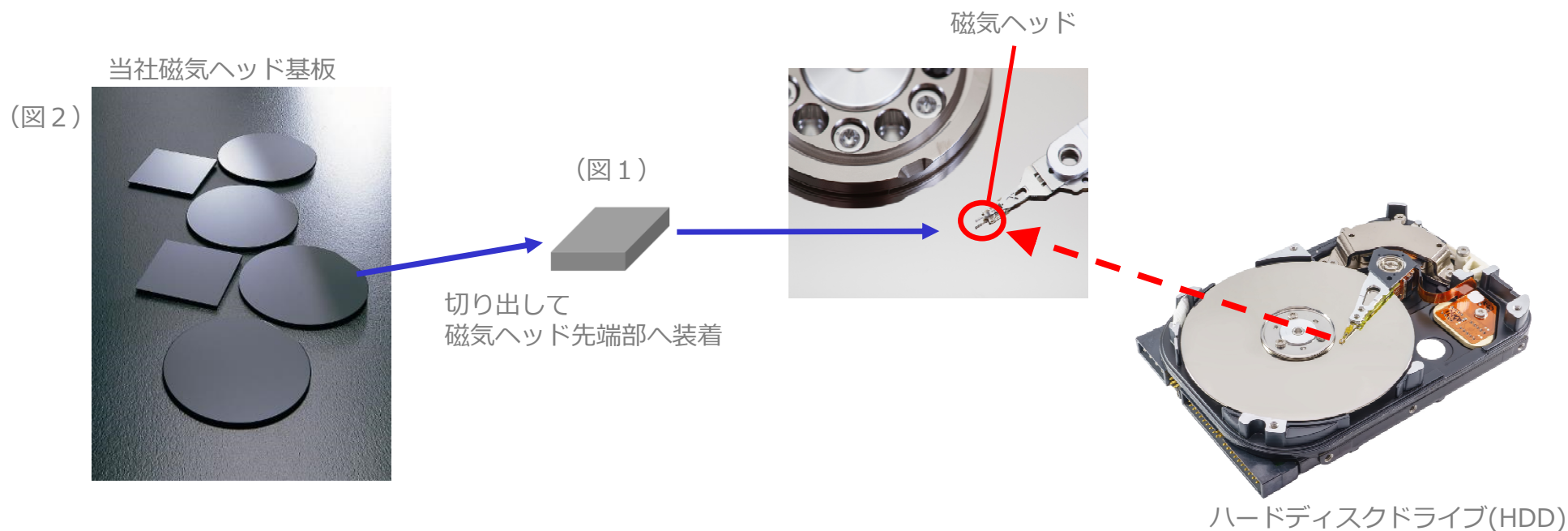
注力製品紹介①(HDD用磁気ヘッド基板)

半導体
電子部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 27

■ 当社磁気ヘッド基板の歴史

- 1979年、大手磁気ヘッドメーカーと磁気ヘッド基板の共同研究開始。
- 1982年、磁気ヘッド基板の量産開始。
- 長い歴史のなかで、ヘッドサイズの小型化（図1）と基板の大口径化・薄型化（図2）に対応する等、顧客ニーズに合わせた材料改良と製造技術開発を継続し、圧倒的シェアを確保。



注力製品紹介①(HDD用磁気ヘッド基板)

半導体
電子部品市場

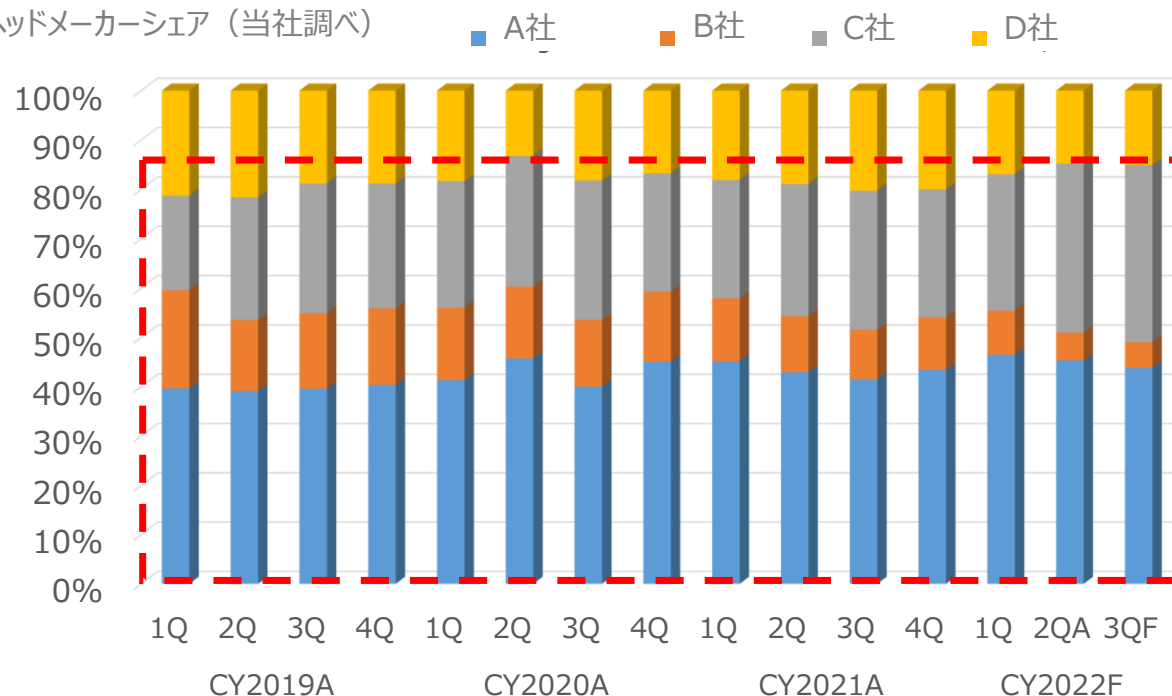
NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 28

■ ハードディスクドライブ(HDD)の需要

- パソコンやスマートフォンの記憶装置では、ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) が主流だが、大量のデータを保管するデータセンター向けでは現在もHDD が主流を占め、今後もこの傾向は続くと思われる。
- HDDの性能を左右する重要な部品の一つがデータの読み書きを行う磁気ヘッドであり、その土台となるのが「磁気ヘッド基板」。当社は、HDD用磁気ヘッド基板で**世界 No.1**。

(参入障壁の高い業界内においてシェア約80%、当社調べ)

世界の磁気ヘッドメーカーシェア (当社調べ)



当社の磁気ヘッド基板は
世界シェア80%!

(株)テクノ・システム・リサーチ「HDD市場の現状と動向」をもとに作成)

注力製品紹介①(HDD用磁気ヘッド基板)

半導体
電子部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 29

■ データセンター市場の動向

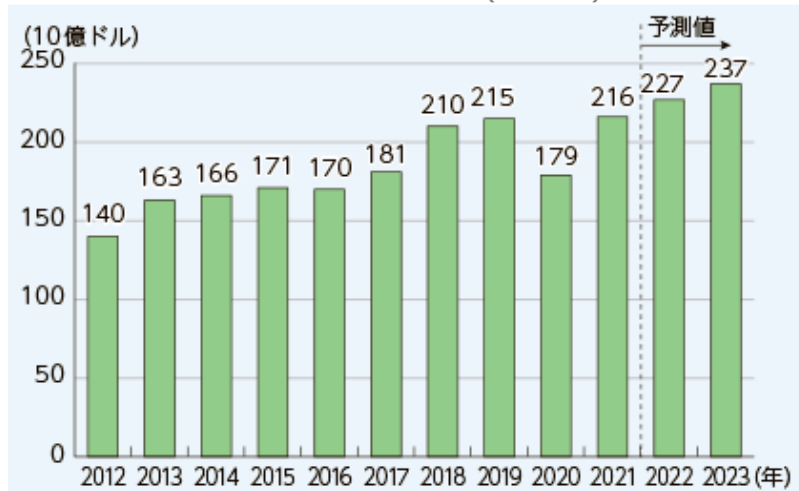
- DX(デジタルトランスフォーメーション)、高速通信規格「5G」、クラウドサービスの普及によりデータ流通量は増加の一途。
- データセンターの能力拡張といった潜在需要は強く、中長期的に国内、海外とも需要は拡大していく見込み。



※データセンター

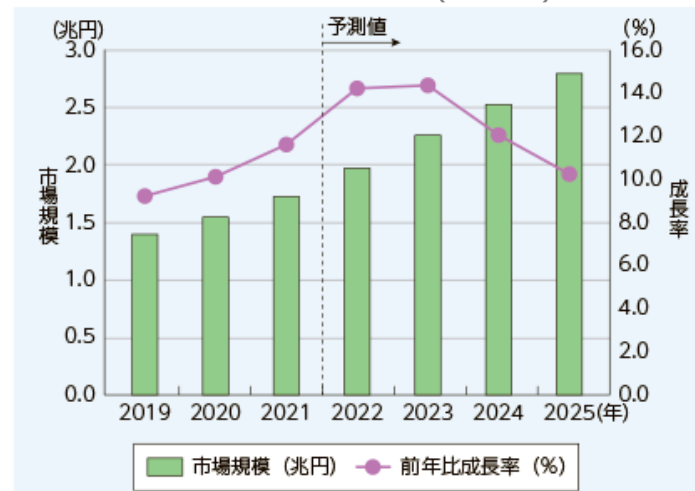
サーバーをはじめとする情報通信機器などを集積して設置・保管・運用することに特化した設備

世界のデータセンターシステム市場規模(支出額)の推移及び予測



(出典)Statista(Gartner)¹¹

日本のデータセンターサービス市場規模(売上高)の推移及び予測



(出典)IDC Japan¹²

出典：令和4年版情報通信白書（総務省）

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

② 【自動車部品市場】

EVリレー用接点

注力製品紹介② (EVリレー用接点)

自動車
部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 31

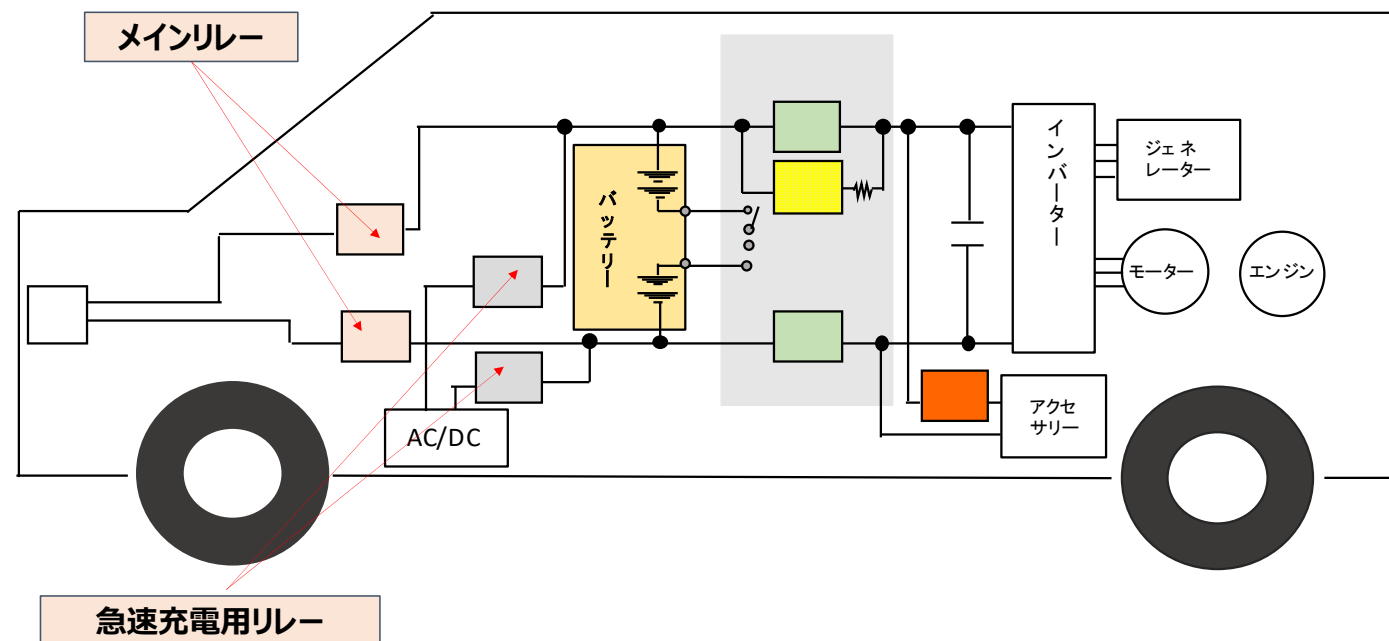
■ EVリレー用接点の役割

- EV車1台にEVリレーは3～4個搭載される。当社製品 (EVリレー用接点) はEVリレーに搭載され、事故などの緊急時にバッテリー、モーターの電流を瞬時に完全に遮断する重要な役割を持つ。

EV用接点



EV、HEV向けEVリレーのアプリケーション例

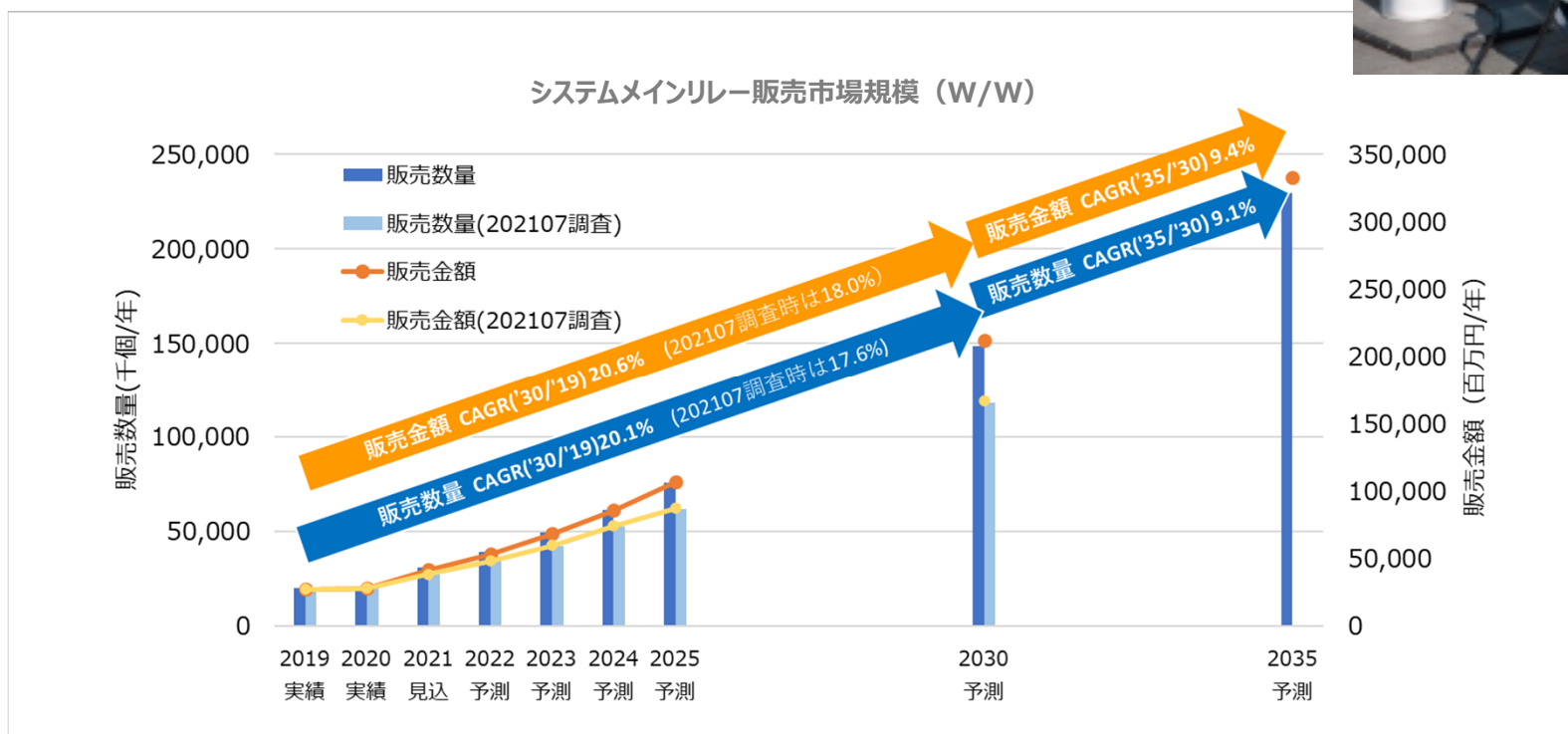


注力製品紹介② (EVリレー用接点)

自動車
部品市場

■ 電気自動車(EV)リレー市場の動向

- 世界のEV市場の急成長とともに、EVに搭載されるシステムメインリレー市場は2030年までに20%以上の市場成長を予測し、今後大きく拡大していく見込み。



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

③ 【自動車部品市場】

電装部品溶接用の抵抗溶接電極

注力製品紹介③ (電装部品溶接用の抵抗溶接電極)

自動車
部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 34

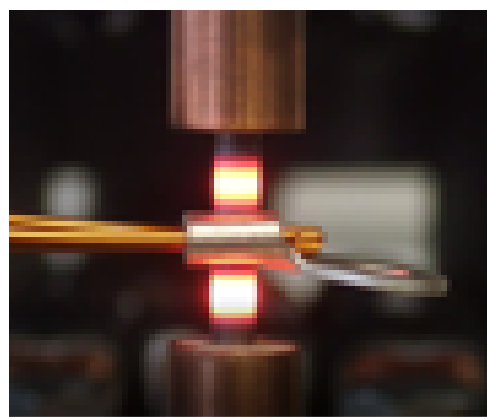
■ 当社製品である抵抗溶接用電極の用途

- 当社の抵抗溶接用電極は、主に銅材料の溶接に使用され、ワイヤーハーネスやモーターといった自動車製造に欠かせない電装部品の溶接用の電極として使用されている。

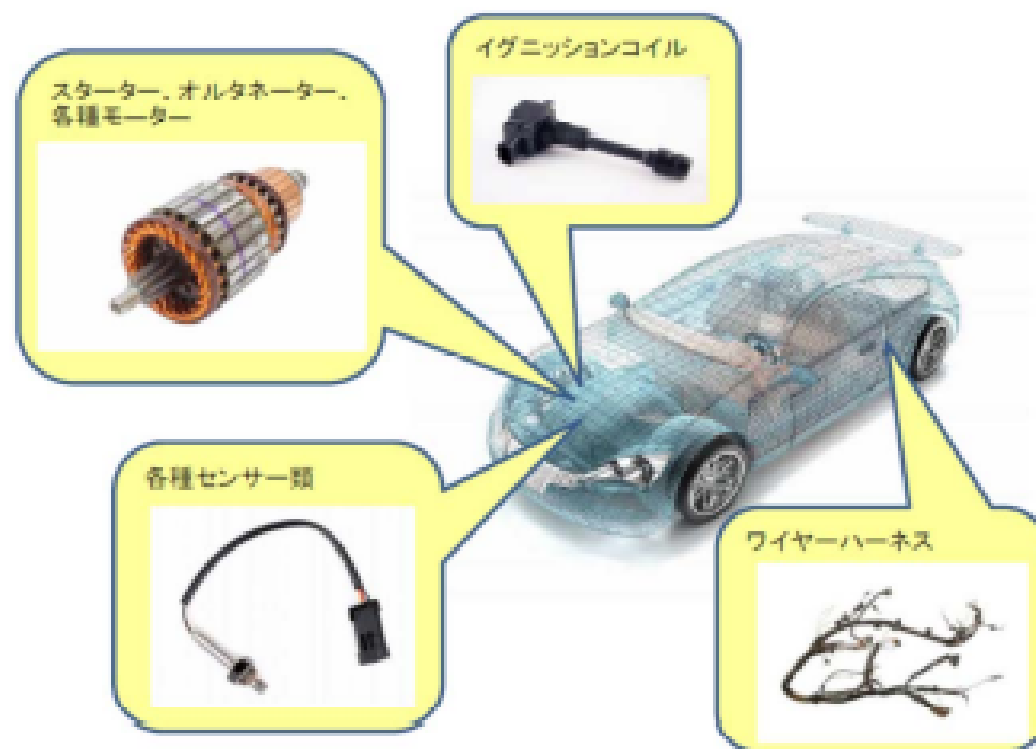
抵抗溶接用電極



電装部品のヒュージング工程



電装部品の接合工程で使用
長寿命化・生産効率向上



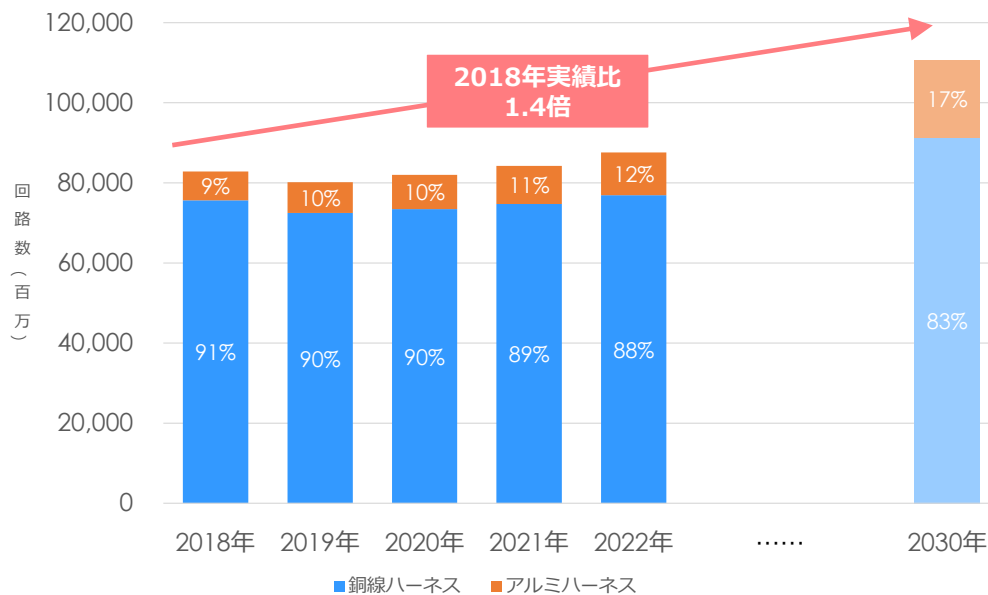
注力製品紹介③ (電装部品溶接用の抵抗溶接電極)

自動車
部品市場

自動車電装部品市場

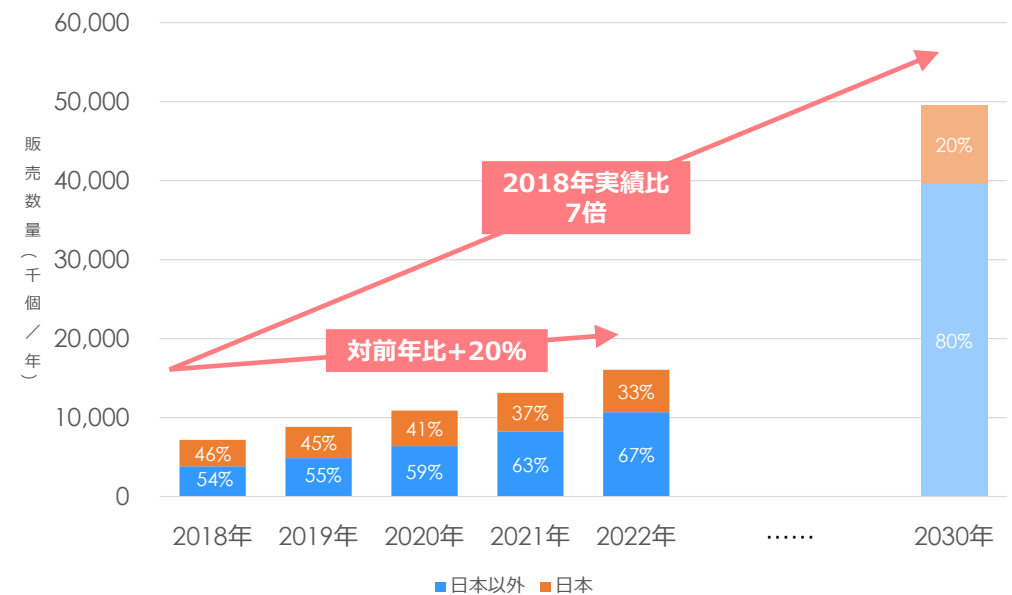
- 自動車の様々な機能は電装部品によって実現され進化。
- 2030年には2018年実績比で、当社製品の主要用途であるワイヤーハーネスの需要は1.4倍、駆動用モーターの需要は7倍になると予測され、順調に伸びていく見込み。

ワイヤーハーネスタイプ別数量市場規模推移と予測



(注) %の数字は全体に占めるアルミ、銅ハーネスそれぞれの割合 (SVPジャパン「車載ワイヤーハーネス市場調査」をもとに作成)

HV/EV/PHV/FCV駆動用モーターの市場規模推移と予測



(注) %の数字は全体に占める日本、日本以外市場それぞれの割合 (SVPジャパン「車載ワイヤーハーネス市場調査」をもとに作成)

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

④ 【自動車部品市場】

二軸混錬押出機用部材 MAZELLOY®

注力製品紹介④ (二軸混練押出機用部材 MAZELLOY®)

自動車
部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 37

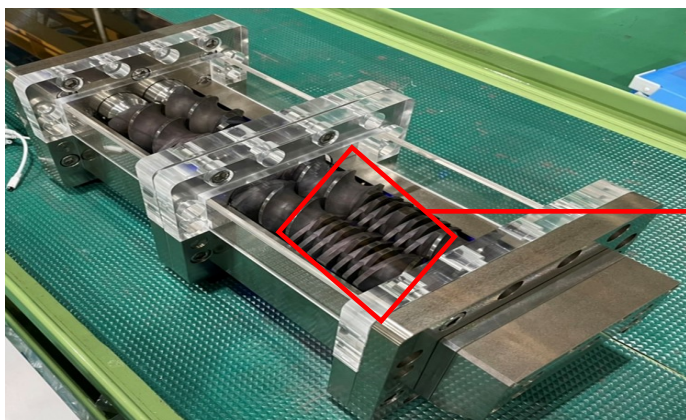
■ 二軸混練押出機の使用と専用部材（スクリュー）の役割

- 二軸混練押出機は2本のスクリューを用いてコンパウンドを行うための装置。自動車部品をはじめとする各種用途のコンパウンド製造のため、世界各国で活用されている。
- 二軸混練押出機用部材“MAZELLOY®”として、「MZ01」(2020年9月)を市場に投入。さらに新商品「MZⅡ」を開発(2022年12月)。

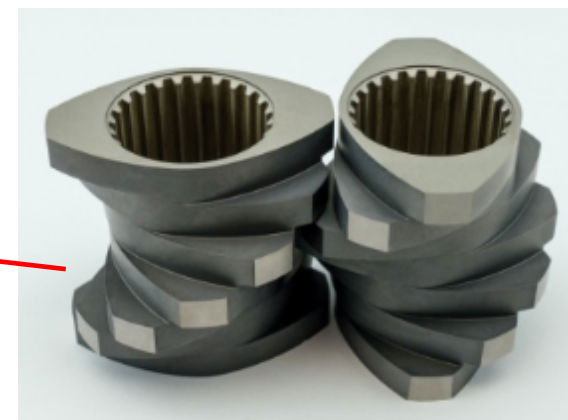
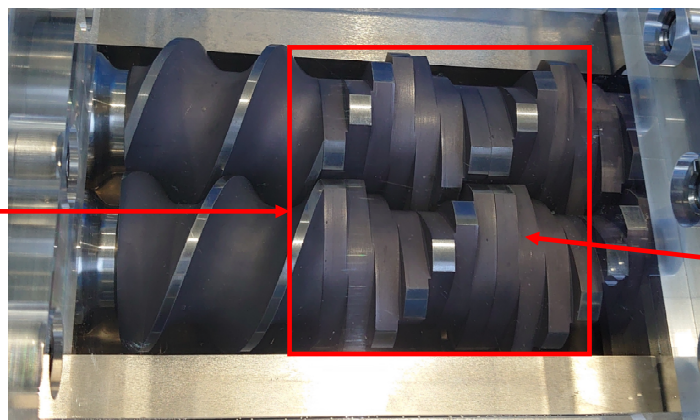
コストダウン
(部材の交換頻度削減)

製造物の品質向上
(腐食・摩耗に強く
摩耗成分の混入最小化)

管理工数削減
(多用途の生産に対応)



二軸混練押出機



MAZELLOY®

注力製品紹介④ (二軸混練押出機用部材 MAZELLOY®)

自動車
部品市場

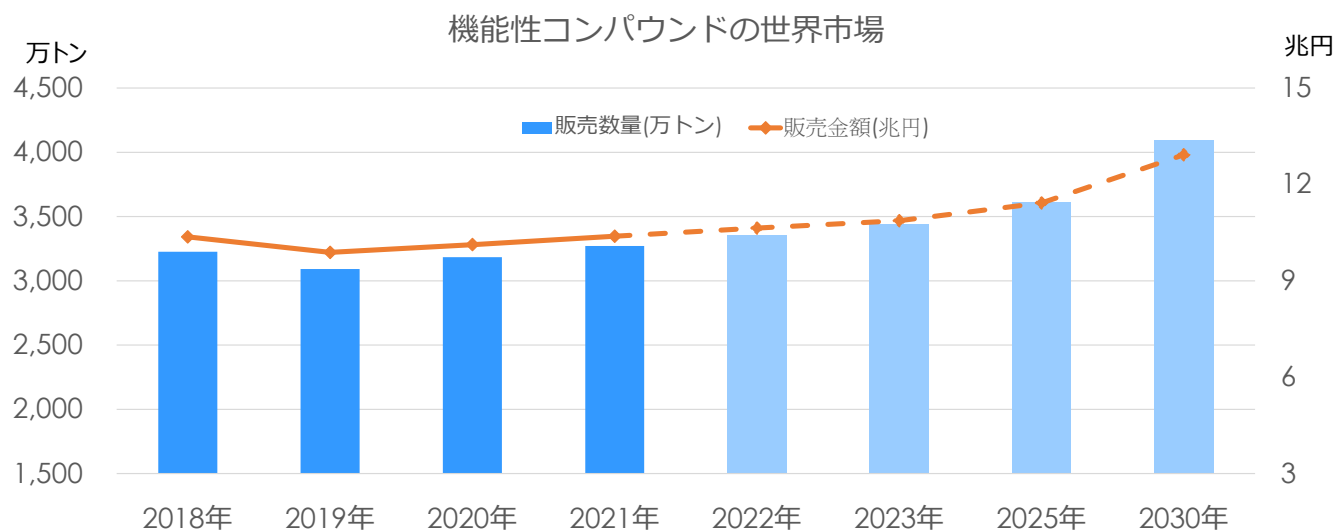
NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 38

■ 樹脂（プラスチック）は自動車の3大材料のひとつ

- 樹脂（プラスチック）は自動車の3大材料（鉄・アルミ・樹脂）のひとつ。電動化の進展などで様々な製品・部品の軽量化ニーズは高まっている。
- ベースとなる樹脂にガラス繊維や添加剤などを混ぜ合わせ、強度や難燃性などの優れた機能を持つ高機能プラスチックに加工することをコンパウンドという。

■ 機能性コンパウンド市場

- EV化により、自動車ボディの軽量化が進むことから、機能性コンパウンド市場は2023年には2017年比で2.5%の成長を予測し、その後も順調に伸びていく見込み。



※機能性コンパウンド
強化プラスチック等の
原料で、ガラス繊維や
難燃剤等の異種素材を
混練し物性を向上され
た材料

出所：(株)富士経済調べ

注力製品紹介④ (二軸混錬押出機用部材 MAZELLOY®)

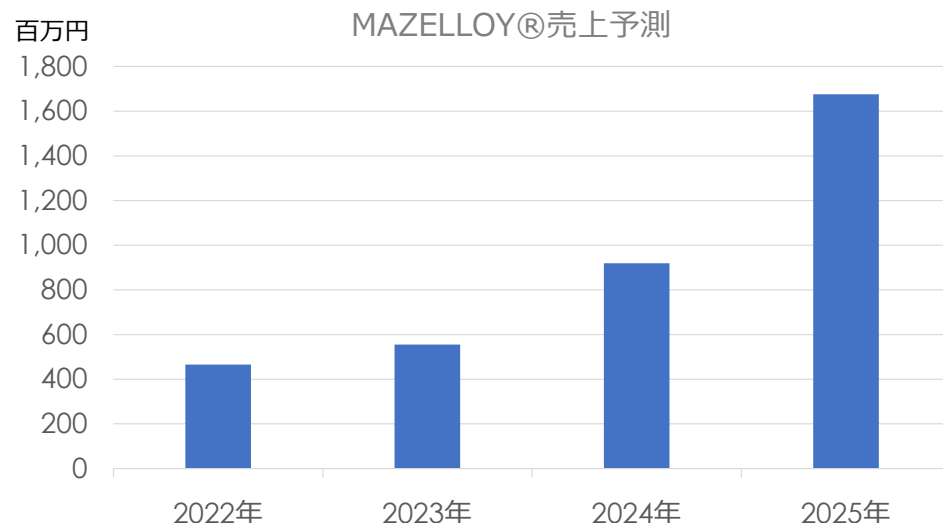
自動車
部品市場

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 39

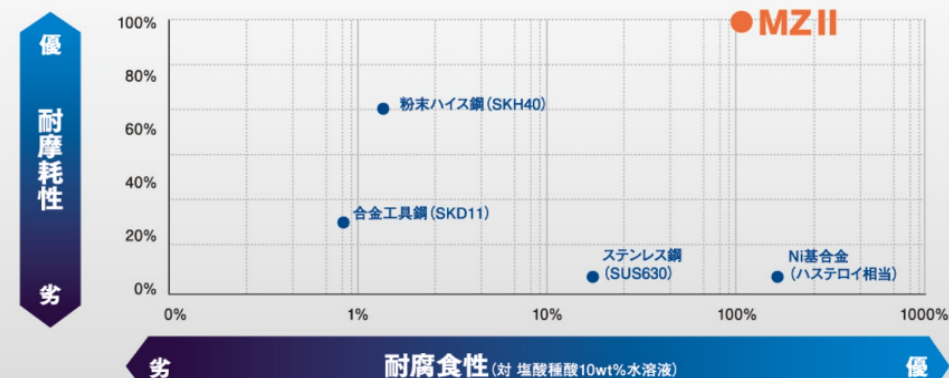
■ 二軸混錬押出機用部材“MAZELLOY®”用の材料開発

- EVなどに用いられる製造装置に採用されることで社会の低炭素化などに貢献するとともに、2025年度事業規模10億円を目指す。

材料名	開発時期	特徴
M Z 01	2020年9月	<ul style="list-style-type: none"> 合金工具鋼の10倍以上の耐摩耗性 鋼材より軽量 (比重7.1)
M Z II	2022年12月	<ul style="list-style-type: none"> 「M Z 01」の軽量性・耐摩耗性を維持し、耐食性能を向上



各材料のポジショニングマップ



(当社MZ IIを100%としたときの比較)



2022年“超”モノづくり部品大賞
(主催：モノづくり日本会議/日刊工業新聞社)
「日本力 (につぼんぶらんど) 賞」を受賞

2022年12月1日付日刊工業新聞「MZ II 開発」記事掲載。
当社HPよりリンク
「https://www.nittan.co.jp/topics/topics_page_1_586.html」

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ⑤ 【衛生用品機器・医療用部品市場】
超硬合金製ダイカッター

注力製品紹介⑤ (NTダイカッター®)

■ 世界のおむつ市場の動向

- 少子化に伴い、子供おむつ市場、生理用ナプキン市場は成熟期にある。
- 高齢化に伴い、大人用おむつ市場は今後も高い成長率が見込まれる。

■ 衛生用品製造機用NTダイカッター®の特徴

- 当社のNTダイカッター®は1986年、世界で初めて実用化された高性能超硬合金製ロータリーカッターで、不織布・紙・ポリマー・金属箔などの高速輪郭加工が可能。
- 国内 No. 1 (シェア約50%)、世界 No. 2 (シェア約22%) 【当社調べ】



子供おむつ



大人おむつ

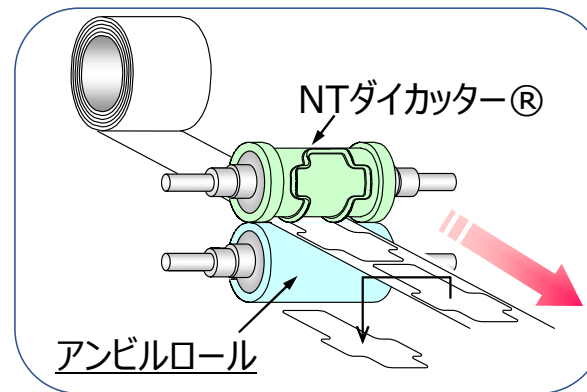
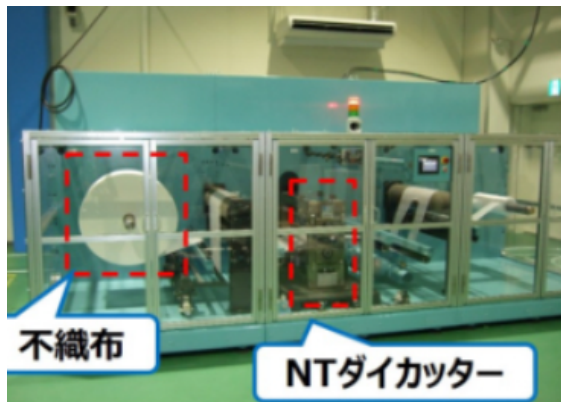


ナプキン

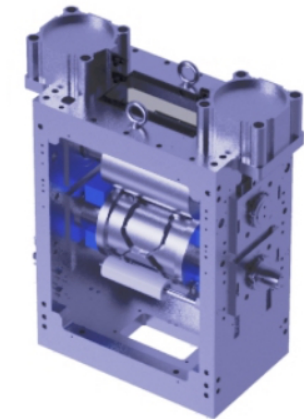


マスク

衛生用品製造機のイメージ(当社テストライン)



NTダイカッター®



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ⑥ 【衛生用品機器・医療用部品市場】
カテーテル用タングステンワイヤー・リボン

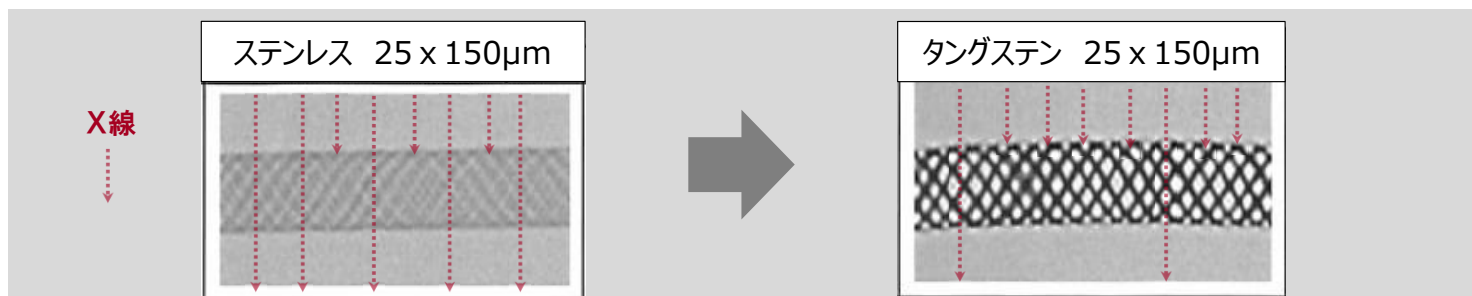
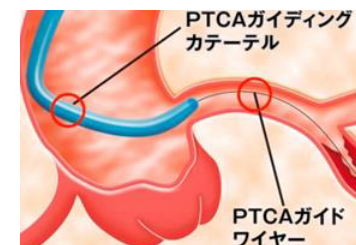
■ カテーテル治療におけるタングステンワイヤー・リボンの役割

- 高密度・高比重のタングステンワイヤー・リボンは放射線の遮蔽力が高いことから、カテーテル線の内部に使用することにより、X線で撮影した画像が鮮明となる
(X線の照射量を減らすことができるため患者の身体的負担軽減に貢献)
- 毛髪よりも細く加工することが可能なためカテーテル線の細線化にも貢献。

タングステンワイヤー



タングステンリボン



- * タングステンは鉄の**2.5倍の重さ**があり、その特徴で、同じ条件下でX線を照射したモニターでは**2.5倍クリア**に見えます。
- * X線照射量を減らすことで、**体の負担が軽減**されます。

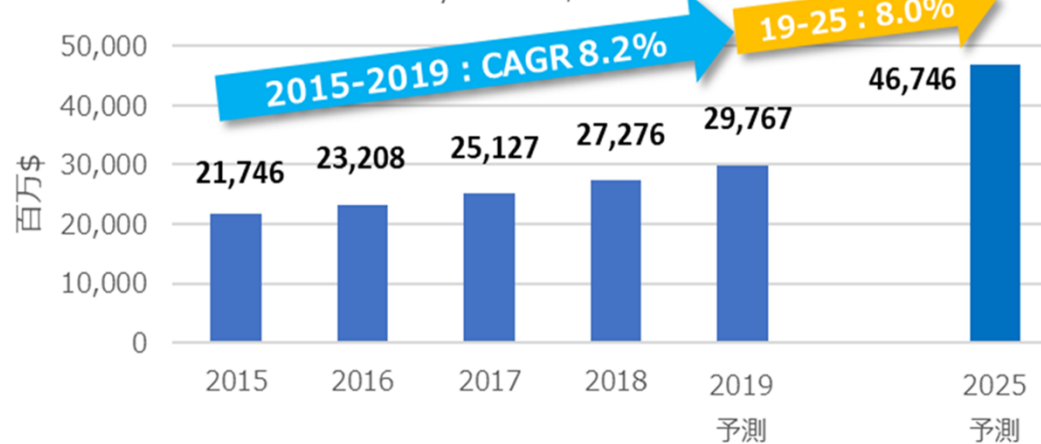
■ カテーテル治療（PTCA治療）

- 狭心症や心筋梗塞など、心臓の血管（冠動脈）がコレステロールなどによって詰まったり、狭くなることで起きる疾患に対する治療法。
- 血管より挿入したカテーテル線の先端を心臓の近くまで進め、心臓をX線で撮影し、治療を行う。
- 世界のカテーテル市場は、2030年に向け順調に伸びていく見込み。



カテーテル 世界市場規模推移

出展：2015-2019 Worldwide Medical Market Forecasts to 2019
2019-2025 Catheters Market by ProductGlobal Opportunity Analysis
and Industry Forecast, 2018 - 2025



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ⑦ 【衛生用品機器・医療用部品市場】
手術支援ロボット用
タングステンワイヤーロープ

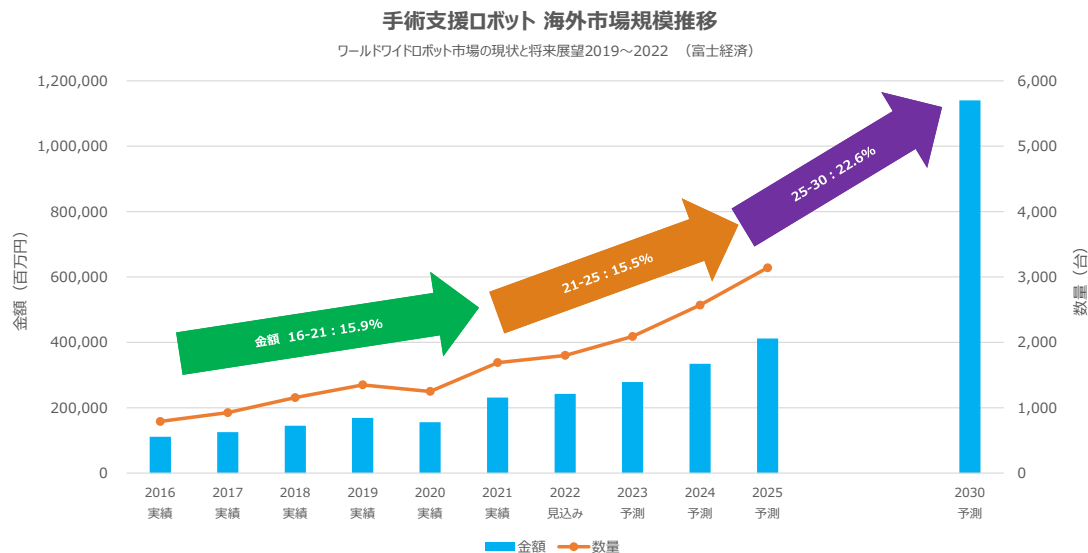
■ 手術支援ロボット

- 医師が3Dの内視鏡カメラによる立体映像を見ながら、ロボット部分のアームを操作して、患者の胸腔や腹腔の患部に直接接触せずに手術を行うためのロボット。
- 「手術中の出血が少ない」「手術による傷口が小さい」「感染症のリスクが低い」等のメリットがあるとされている。



■ 手術支援ロボットの市場動向

- 手術支援ロボットの年平均成長率は15.5%と予測され、2025年の世界市場規模（予測）は4,000億円を見込む。



- 手術支援ロボットの導入には、各国の保険制度適用が大きく影響。
- 米国では幅広い手術に活用されており、日本でも2018年以降適用範囲が急速に拡大中。
- タングステンワイヤーロープはステンレス材に比べ、強度や操作伝達性に優れており、ロボットのアーム部材として新規参入を目指す。

3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(2) 4つのターゲット市場と注力製品

- ⑧ 【産業用機器部品市場】
超硬長尺製品

注力製品紹介⑧（超硬長尺製品）

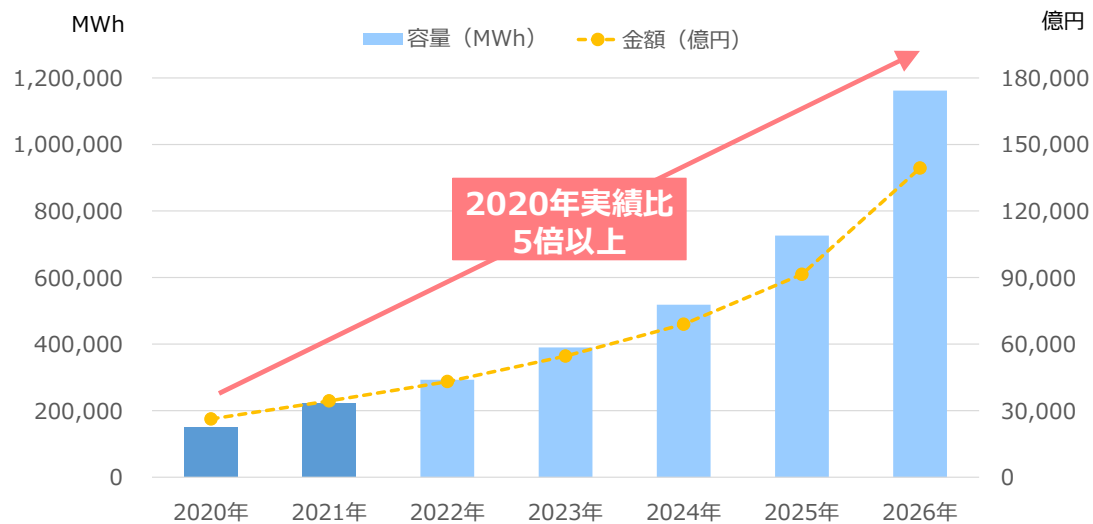
■ 2次電池や液晶パネルの高機能フィルム製造に不可欠な当社の超硬長尺製品

- 2次電池や液晶パネルディスプレイに不可欠な高機能フィルムは、大型化と更なる高機能化が求められ、高機能フィルム製造装置の大型化、高機能化、稼働率向上に対応した当社の超硬長尺製品の需要は堅調。

■ リチウムイオン2次電池市場の動向

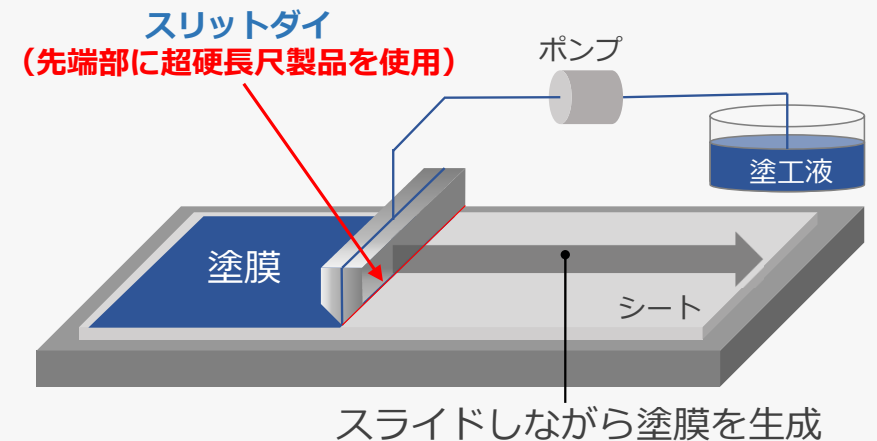
- リチウムイオン2次電池は、エネルギー密度が高く、小型化や高出力化に対応できる電池として、ニッケル水素電池や鉛蓄電池などから需要がシフト。また、EV需要の高まりとともに、世界のリチウムイオン2次電池市場は2020年実績から2026年には5倍以上と力強い成長を遂げると予想。

世界 車載用リチウムイオン電池市場規模・予測



出所：日本能率協会総合研究所マーケティングデータバンク推定による

超硬長尺製品による塗膜生成のしくみ

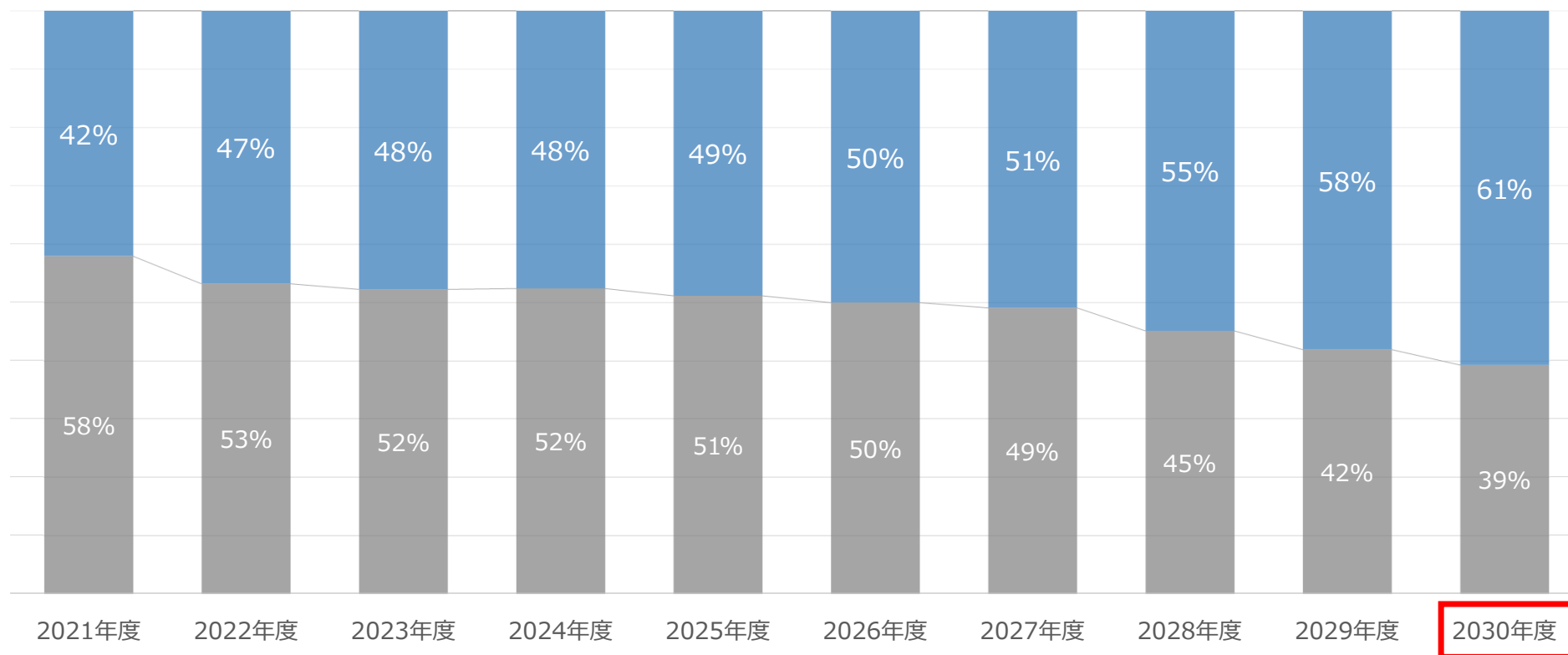


注力製品が売上高に占める割合

- 事業ポートフォリオ再編による既存事業の価値最大化を図ることで、注力製品※の売上占有率を、2021年度の42%から2030年の60%程度まで高める。
※磁気ヘッド基板、EVリレー用接点、MAZELLOY®等

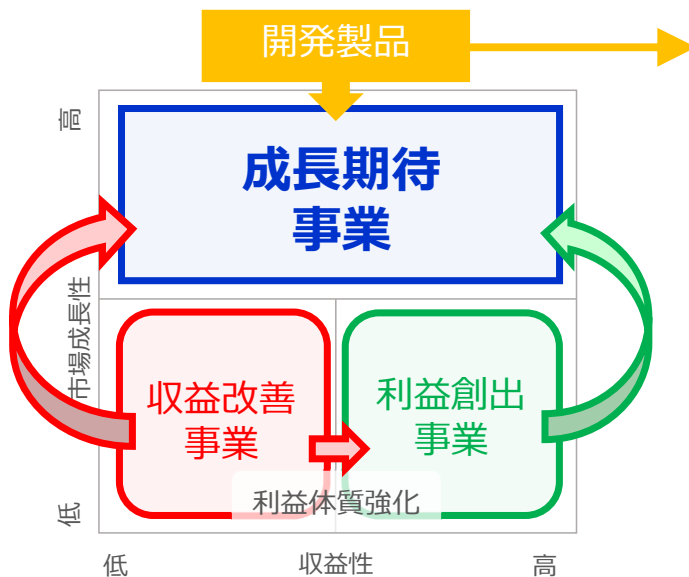
注力製品が売上高に占める割合

■ 注力製品以外の売上比率 ■ 注力製品の売上比率



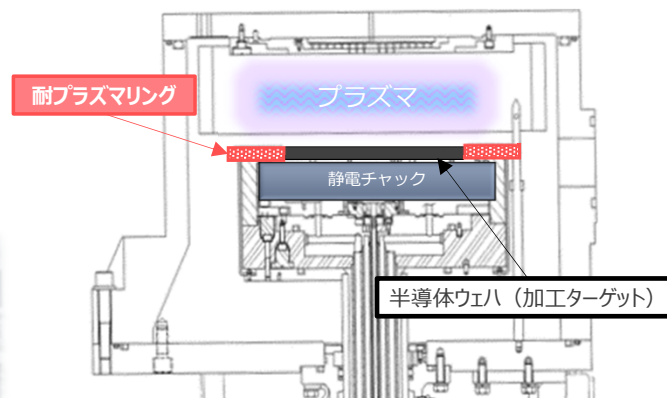
3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(3) 注力中の開発製品



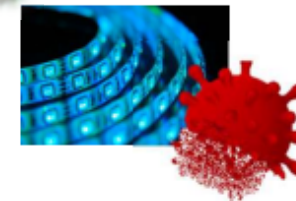
■ 半導体製造装置関連部材

- 半導体製造装置メーカーとの協業体制。
- 高耐プラズマ素材の開発・提供により半導体製造工程の生産性向上。



■ 殺菌用深紫外LED関連製品

- 公的機関などとの協業体制
- 材料設計技術を活かした新素材を開発・提供し深紫外LEDの性能UP



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(4) サステナビリティへの取り組み

2024中期経営計画 サステナビリティへの取り組み 53

- 当社は限りある資源をもとに“ものづくり”を支える企業として、マテリアルから始まる新たな価値を創造し、持続可能な社会に貢献していくことが使命と考える。
- 具体的な取り組みとして、2022年4月にサステナビリティ経営準備委員会を立ち上げ、3つの分野における重要なマテリアリティの策定、中長期的な目標設定に着手し取り組みを加速。

持続可能な社会の実現に貢献し続けるための3つの取り組み項目

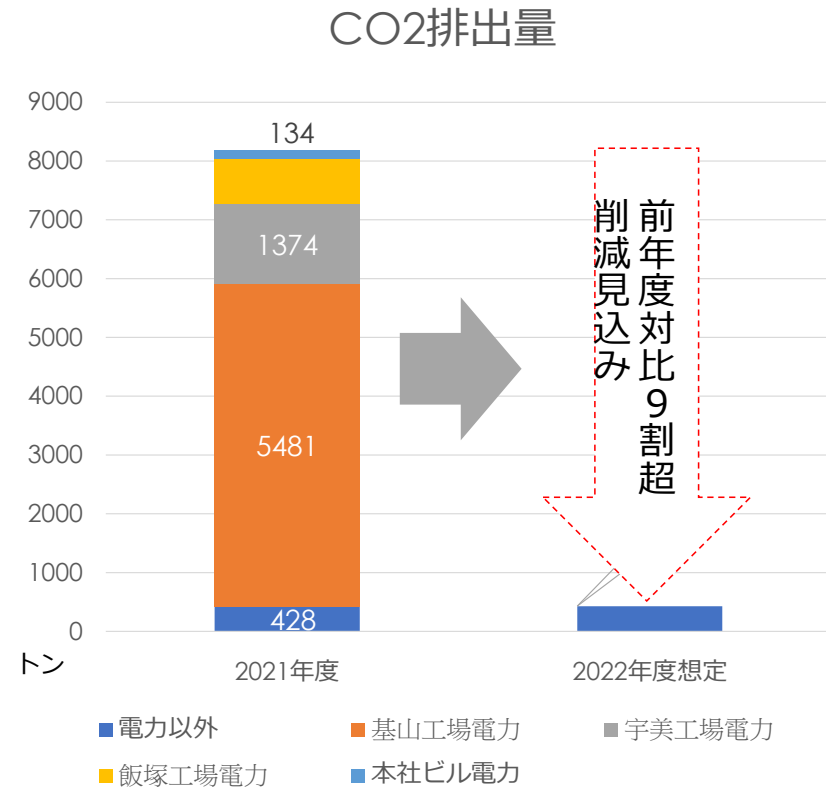
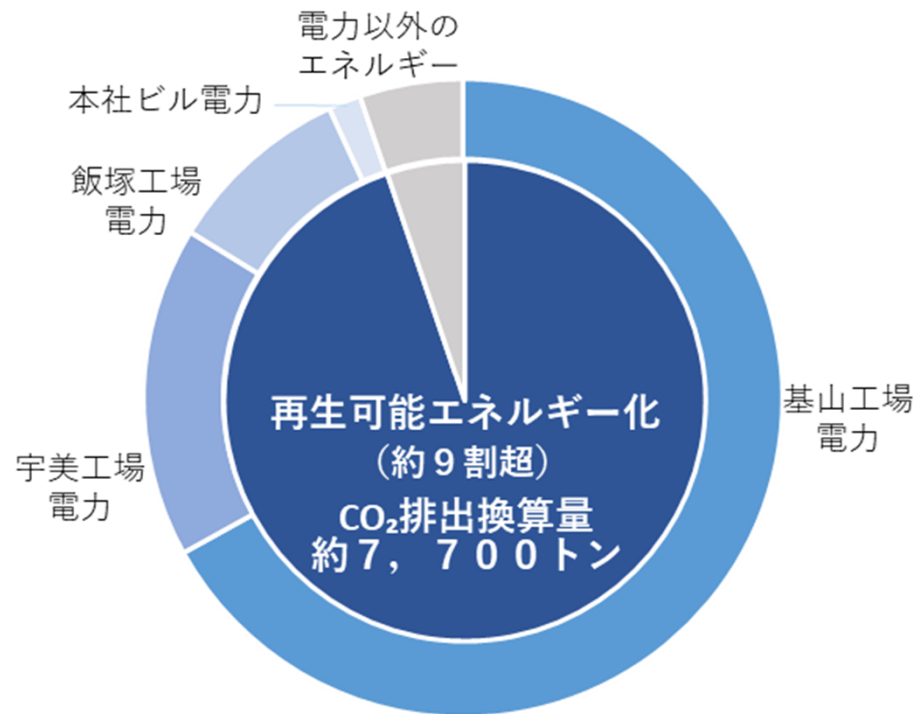
環境への配慮 カーボンニュートラル工場への挑戦、新商品での貢献

資源の有効活用 限られた資源をいかに守るか

多様な人財が働きやすい環境 お互いを認めあい、高めあう環境

■ カーボンニュートラルへの取り組み

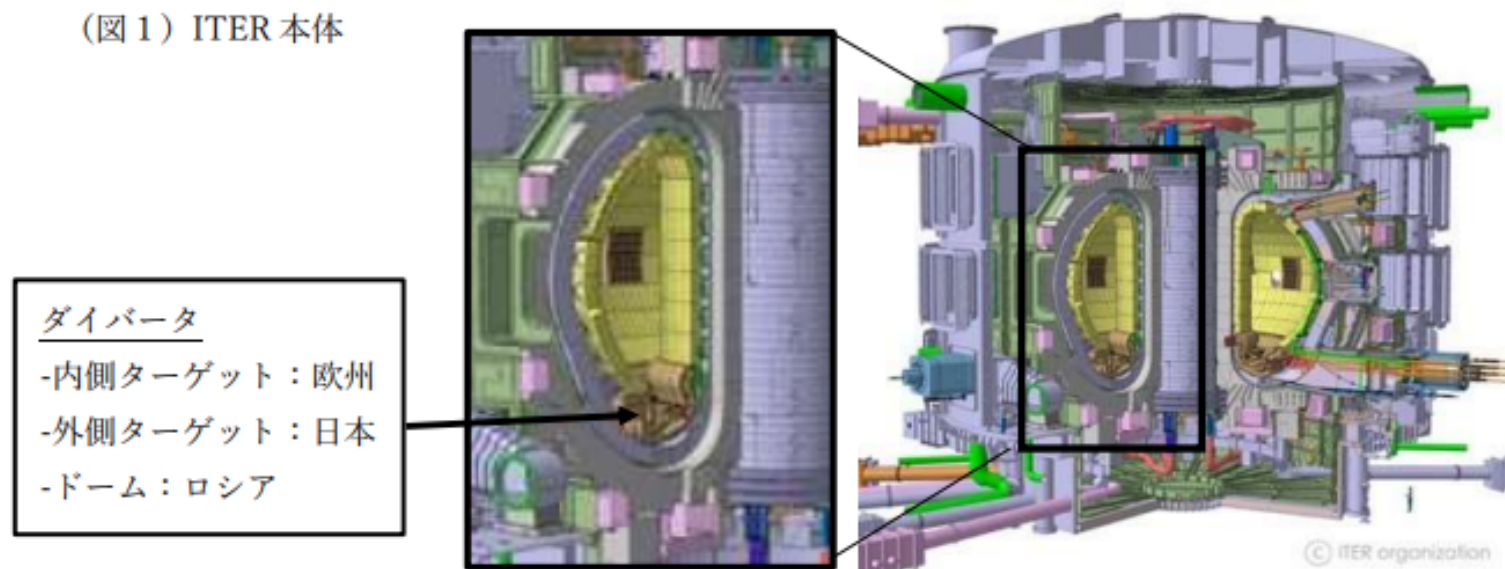
- 基山工場、宇美工場、飯塚工場および本社ビルの100%再生可能エネルギー由来電力への切り替え（2022年4月）
- 当社使用エネルギー全体の約9割を超える年間約16,000MWh（2021年度）・7,700トン相当のCO₂削減見込み



■ 「ITER(イーター)計画」における核融合実験炉(ITER)向け部品に当社のNDB技術が採用

- 核融合反応を利用した「核融合エネルギー」は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しない、エネルギー問題と環境問題を根本的に解決する恒久的なエネルギーとして注目。
- ITER計画とは核融合実験炉イーター(以下、ITER)の建設・運転を通じて、核融合エネルギーの科学的・技術的実現性の確立を目指すもの(日本・欧州(EU)・米国・ロシア・韓国・中国・インドの7極による国際協力により推進中)。
- ITER本体の構成部品の製作における接合に、当社のNDB(Non Defective Bonding)技術が採用。(2019年4月)

(図1) ITER 本体



3. 日本タングステングループ 創立100周年に向けた長期ビジョンと事業戦略

(5) 2024中期経営計画の進捗状況

2024中期経営計画 財務計数目標と進捗状況

新型コロナウイルス感染症による業績悪化から概ね回復。
2024年中計最終年度の目標達成に向け、順調に推移。

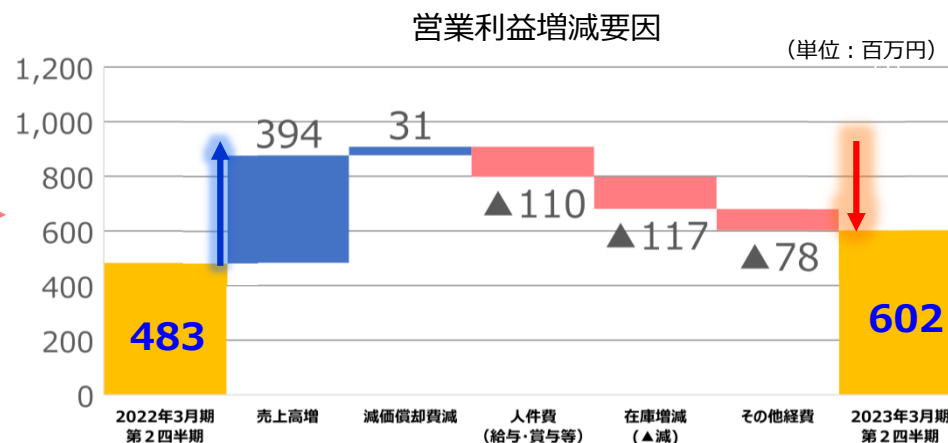
前半の1st Stage

	2020年度	2021年中計 初年度目標	2021年度 実績	2022年度 予想	2024年中計 最終年度目標
売上高	98.9億円	110億円	120.3億円	127億円	130億円
営業利益	2.7億円	7億円	9.1億円	10.5億円	10億円
営業利益率	2.8%	6.3%	7.6%	8.2%	8%
ROE	△0.6%	5.6%	8.4%	8.5%	8%
研究開発費	2.6億円		3.1億円		14億円/4年 (3.5億円/年)
設備投資額	3.2億円		2.6億円		32億円/4年 (8億円/年)
株主還元 (1株当たり配当金)	40円	80円	120円	120円	100円

4. 2023年3月期第2四半期の業績概要

連結業績の概要

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	(単位：百万円)	
			対前年比 増減額	増減率 (%)
売上高	5,865	6,611	745	12.7
営業利益	483	602	119	24.8
経常利益	619	756	137	22.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	444	518	73	16.6



連結売上高	66億1千1百万円 (前年同四半期比12.7%増)	<ul style="list-style-type: none"> 半導体・電子部品市場：好調を維持 産業用機器・部品市場：国内外の設備投資需要に支えられ好調に推移 自動車部品市場：半導体不足の影響等により、減収 衛生用品機器市場：需要の回復が部分的なものに留まっており、低調に推移
営業利益	6億2百万円 (同24.8%増)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同四半期を上回る売上高を記録 製造経費並びに販管費の圧縮等の収益改善活動を進めた結果、増益
経常利益	7億5千6百万円 (同22.2%増)	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益の増加や、円安が進行したことによる為替差益の計上等により、増益
親会社株主に帰属する当期純利益	5億1千8百万円 (同16.6%増)	<ul style="list-style-type: none"> 各利益の増加に伴い、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比16.6%増となった。

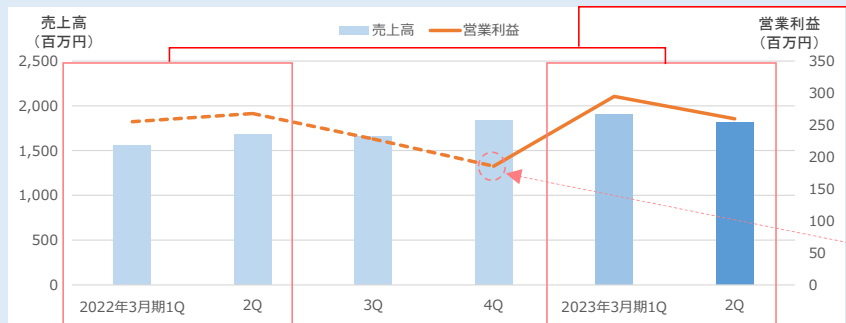
セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

		(単位：百万円)		対前年比	
		2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
機械部品 事業	売上高	3,240	3,723	482	14.9
	営業利益	523	554	31	6.0
電機部品 事業	売上高	2,680	2,894	213	8.0
	営業利益	244	305	61	25.3
調整額	売上高	△56	△6	50	-
	営業利益	△284	△257	26	-
全社	売上高	5,865	6,611	745	12.7
	営業利益	483	602	119	24.8

機械部品事業、電機部品事業ともに
対前年同四半期比で増収増益

機械部品 事業	(単位：百万円)							
	2022年3月期				2023年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,562	1,678	1,657	1,833	1,908	1,814	1,814	1,814
営業利益	255	268	228	185	294	259	259	259



	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上構成比	54.7%	56.3%
営業利益率	16.1%	14.9%

【売上高】

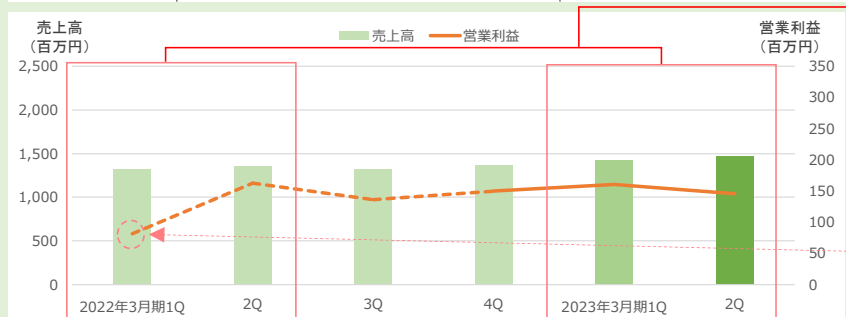
- ・対前年同四半期比では、14.9%の増加
- ・四半期推移では、前年度第4四半期から、連続して18億円超の水準で推移

【営業利益】

- ・対前年同四半期比で6.0%の増益
- ・四半期推移では、安定した利益を確保

※2022年3月期第4四半期は修繕費等の増加により、他の四半期と比較し減益

電機部品 事業	(単位：百万円)							
	2022年3月期				2023年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,324	1,356	1,317	1,368	1,425	1,468	1,468	1,468
営業利益	81	162	136	149	160	145	145	145



	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上構成比	45.3%	43.7%
営業利益率	9.1%	10.6%

【売上高】

- ・対前年同四半期比では、8.0%の増加
- ・四半期推移では、当第1・2四半期が14億円台と堅調に推移

【営業利益】

- ・対前年同四半期比で25.3%の増益
- ・四半期推移では、安定した利益を確保

※2022年3月期第1四半期は照明用タングステンワイヤー製品の余剰在庫の処分損・評価損を織り込んだことにより、他の四半期と比較し減益

通期業績の見通し

経済環境の見通し

・ロシア・ウクライナ情勢の長期化、為替の動向及び感染症リスクの継続等、業績の下振れリスクも多くあり、先行きは不透明な状況が続くものと思われる。

当社グループが注力する市場の見通し

- ・半導体・電子部品市場 ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板が、データセンター向け需要の一服感から、在庫調整等が見込まれる。
- ・自動車部品市場 自動車生産の減産による影響が続くと想定。

2023年3月期の通期業績予想について

- ・現時点で、連結、個別ともに2022年8月4日に公表した業績予想値から変更はない。
- ・今後も受注状況及び市場環境の動向を見極めつつ、予想を修正すべき場合は速やかに公表

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,700	5.5	1,050	14.9	1,260	1.7	900	3.4	373.17

2023年3月期第2四半期決算のまとめ

2023年3月期（2022年度）第2四半期決算の総括

- ・第2四半期の業績は、連結・個別ともに2期連続で増収増益。
- ・連結決算では、第2四半期決算開示制度以降で、連結売上高・連結経常利益が過去最高を記録
- ・個別決算では、第2四半期決算開示制度以降で、経常利益が過去最高を記録

注力市場の概況

- ・半導体・電子部品市場 : 好調を維持
- ・産業用機器・部品市場 : 国内外の設備投資需要に支えられ好調に推移
- ・自動車部品市場 : 半導体不足の影響等により、減収
- ・衛生用品機器市場 : 需要の回復が部分的なものに留まっており、低調に推移

剰余金の配当（中間）

- ・1株当たり60円（2022年12月6日支払開始）を実施。

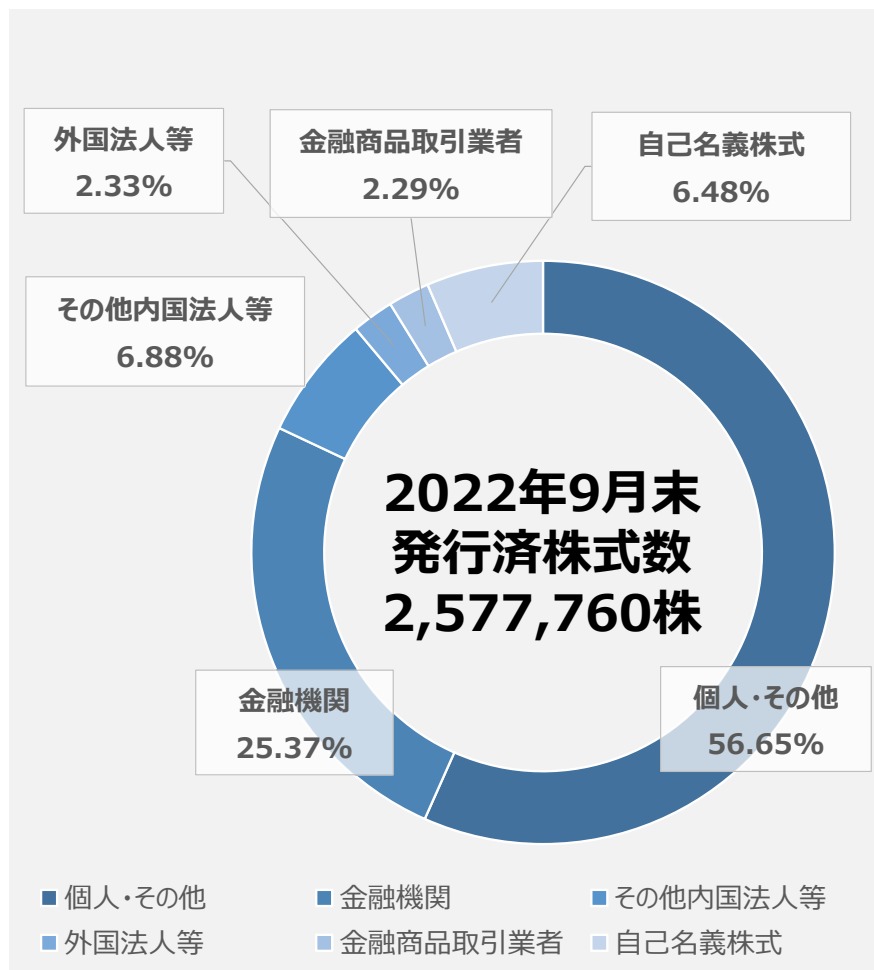
今後の見通し

- 今後の見通し
 - ・ロシア・ウクライナ情勢の長期化、為替の動向及び感染症リスクの継続等、業績の下振れリスクも多くあり、先行きは不透明な状況が続くと見込む。
 - ・好調が続く半導体・電子部品市場で、需要の一服感から、在庫調整等を見込む。
 - ・自動車部品市場では自動車生産の減産による影響が続くと想定
- ・通期業績予想 2023年3月期通期の業績予想（2022年8月4日公表）に修正はなし。
（受注状況及び市場環境の動向を見極めつつ、予想を修正すべき場合は速やかに公表）
- ・期末配当金予想 2023年3月期の期末配当金予想（2022年9月15日公表）1株当たり60円に修正はなし。
中間配当金と合わせ1株当たり120円の予想。（予想配当性向32.0%）

5. 株式の状況と株主還元

株式の状況

■所有者別株式分布状況



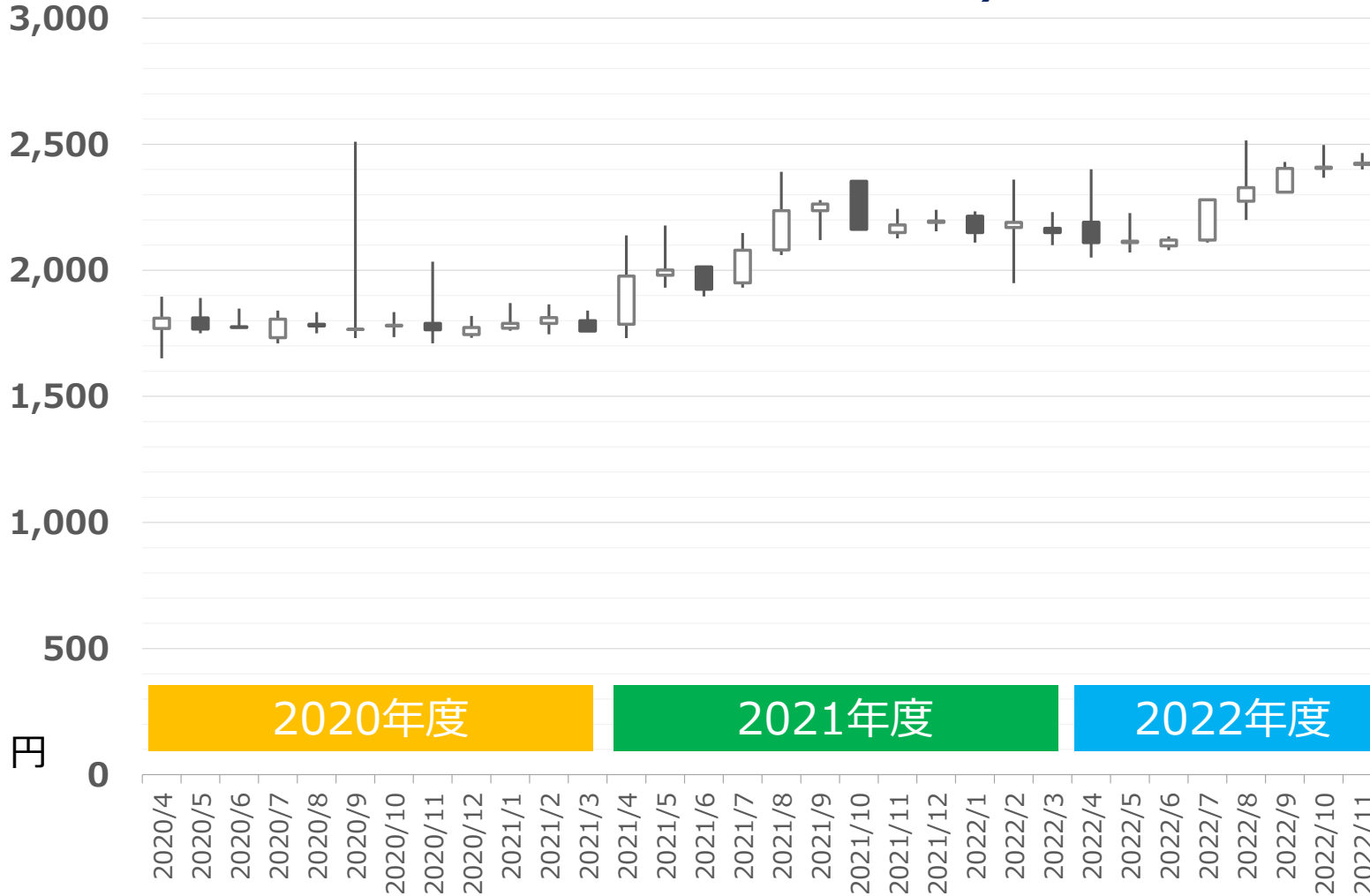
■株式指標

発行済株式数(2022年9月末)	2,577千株
株価(12月14日)	2,430円
1株当たり純資産(2023/3月期第2四半期)	4,637.61円
PBR: 株価純資産倍率	0.5倍
1株当たり純利益(2023/3月期予想)	373.17円
PER: 株価収益率(2023/3月期予想)	6.5倍
1株当たり配当金(2023/3月期予想)	120.0円
配当利回り(2023/3月期予想)	4.9%

2022年12月14日終値(2,430円/株)で試算

株式の状況

■ 株価の推移 (2020/4~2022/11 : 東京証券取引所)

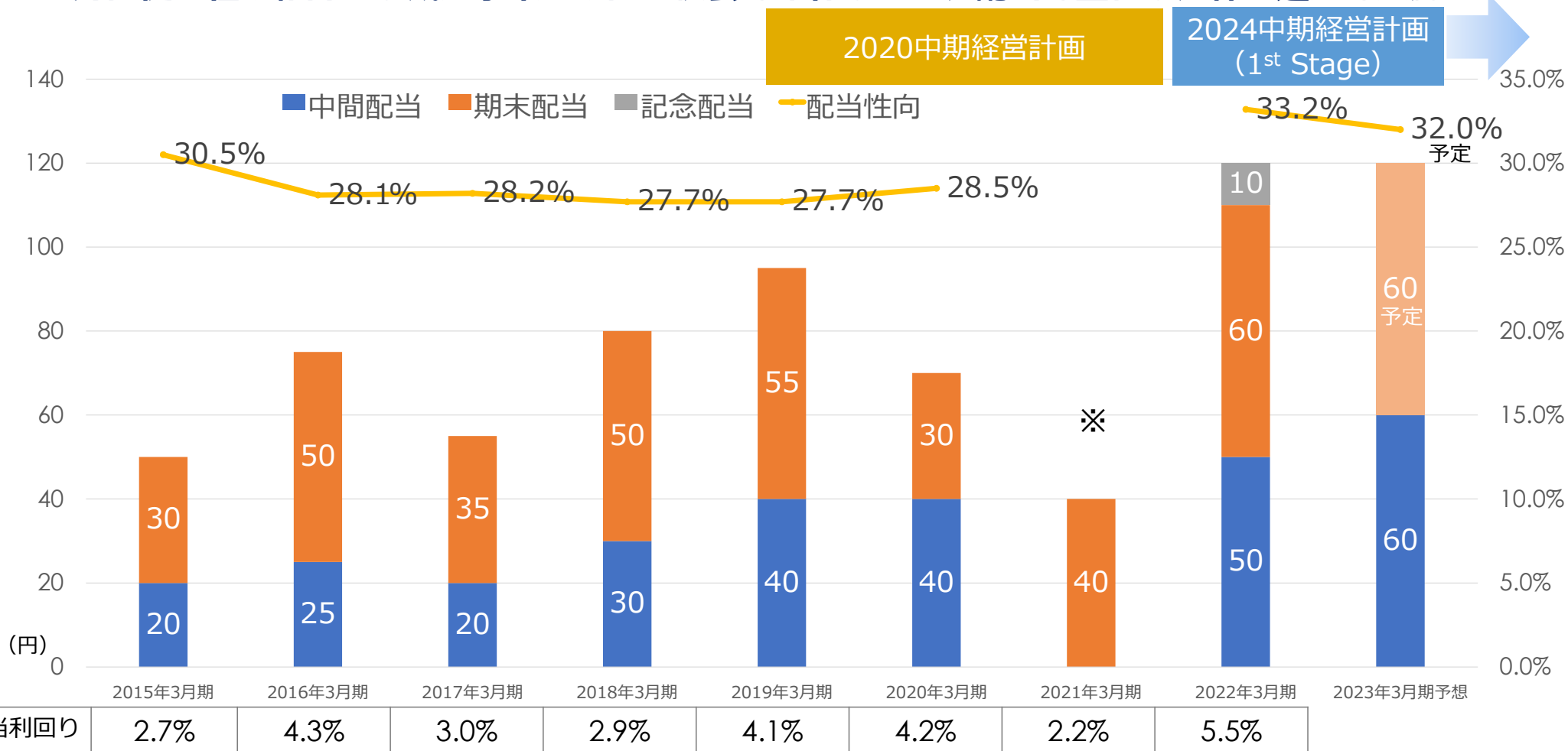


配当利回り
4.9%

※2022年12月14日終値に基づく。

剰余金の配当

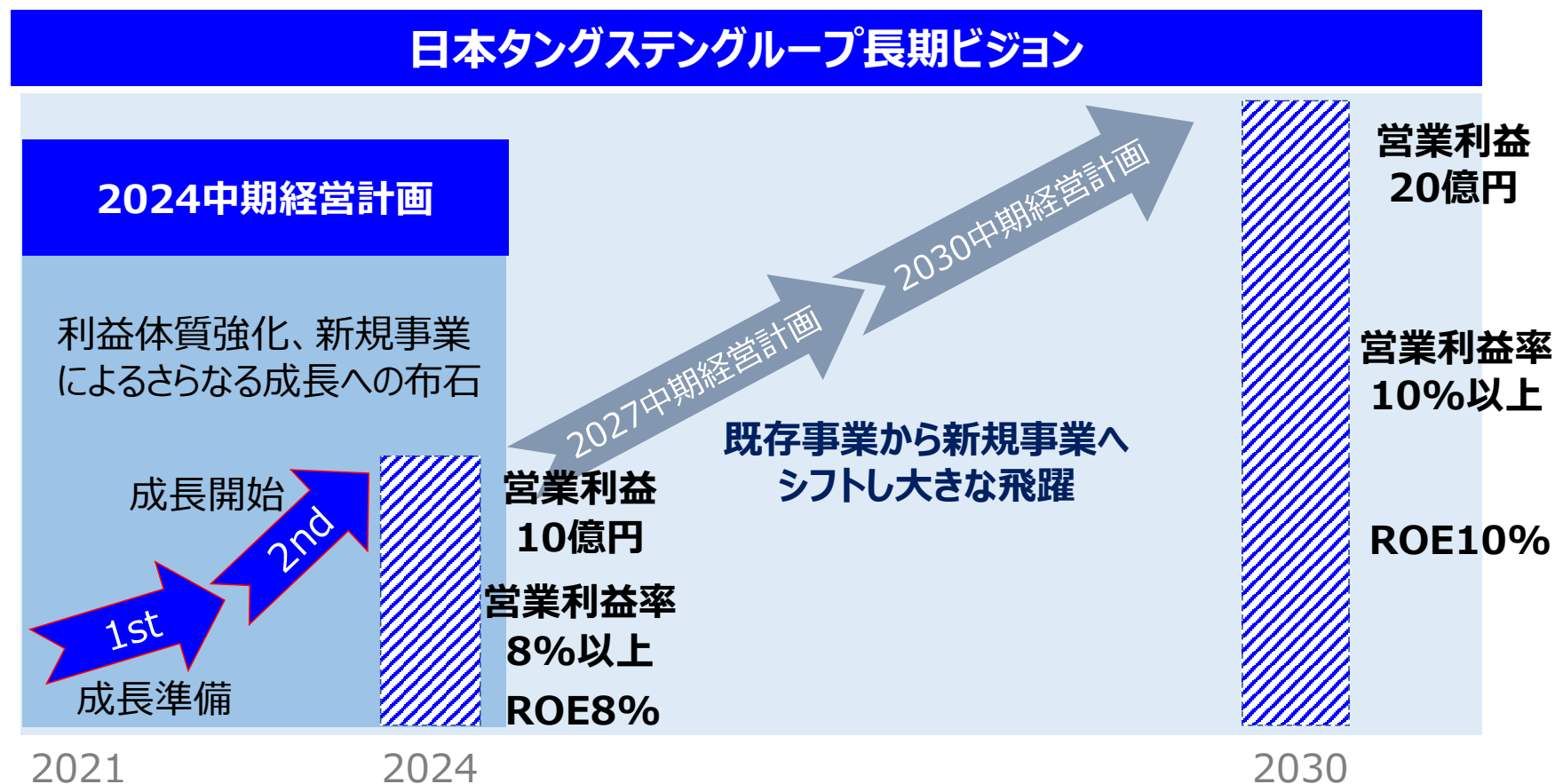
■ 財務健全性の維持及び成長事業への投資機会を確保しつつ、配当を重視した株主還元を実施



※2021年3月期は当期純損失のため配当性向は該当ありません

創立100周年(2031年)に向けた成長戦略

2024中期経営計画は持続的成長に向け、収益構造の転換と新商品の創出に取り組む。
創立100周年を見据え、2030年度は営業利益20億円営業利益率10%以上を目指す。



日本タングステングループ について

- 1931年創業。福岡市に本社を置き、佐賀県・福岡県の3工場と、海外にも子会社等を置き、事業を展開
- お客様の多様なニーズにお応えする、多品種少量生産体制
- 堅実な財務基盤、透明性の高いコーポレート・ガバナンス体制

独自の技術力を生かし 注力市場へ製品展開

- 人々の暮らしに大きく関連する市場に、設備や製品の部材等を供給
(注力市場：半導体・電子部品、自動車部品、産業用機器・部品、衛生用品機器・医療用部品)
- 「高度な粉末冶金技術」と、「特性を生かした独自の製品開発・加工技術力」により、製品を差別化

2024中期経営計画の 進捗

- 中期経営計画1stステージの2年間（2021~2022年度）では、「成長に向けた基盤強化」として、利益体質の強化に注力。
- 2022年度の業績予想は、最終年度(2024年度)の目標値に近づく見込みであり、順調に推移

株主還元について

- 2021年度は過去最高の配当を実施（1株当たり120円）。今年度も同額の配当を予定。
- 注力製品を中心とした事業成長を促進し、堅実な財務基盤の下、配当を重視した株主還元を実施予定。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



■ I Rに関するお問い合わせ先

経営管理本部 経営管理部 : TEL 0 9 2 - 4 1 5 - 5 5 0 0

ホームページ : <https://www.nittan.co.jp/> mail info@nittan.co.jp